



2027
年度

専門研修案内

診療科案内

愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター

目 次

◆ 病院長・研修センター長あいさつ

◆ 新しい制度における専門研修の募集

◆ 専門研修プログラム内容

(1) 内 科	1
(2) 小児科	8
(3) 皮膚科	10
(4) 精神科	12
(5) 外 科	14
(6) 整形外科	18
(7) 産婦人科	20
(8) 眼 科	22
(9) 耳鼻咽喉科	24
(10) 泌尿器科	26
(11) 脳神経外科	28
(12) 放射線科	30
(13) 麻酔科	32
(14) 病理診断科 (病理部)	34
(15) 臨床検査医学	36
(16) 救急科	38
(17) 形成外科	40
(18) リハビリテーション科	42
(19) 総合診療科	44

ご 挨 拶

次代の医療を担う志を持った皆さんに、心からの期待を込めてメッセージを送ります。

今、医療を取り巻く環境は激変しています。高度化する専門医療、加速する医療DX、そして地域医療の再編。しかし、時代がどれほど移り変わろうとも、医療の原点は「目の前の患者さんに最善を尽くし、寄り添う心」にあります。

本院は、愛媛県内唯一の大学病院として、高度急性期医療の提供と地域医療のバックアップという重責を担っています。ここには、あらゆる疾患に対応できる「最先端の医療設備」と、各分野の「第一線で活躍する指導医」、そして多職種が一体となって患者を支える「チーム医療の土壌」があります。私たちの使命は、この恵まれた環境を皆さんの成長のために最大限に開放することです。

専門研修は、一人の医師としてのアイデンティティを確立する極めて重要な時期です。だからこそ、本院のプログラムは「型」にはめるものではありません。サブスペシャリティの追求はもちろん、地域医療への貢献、世界を視野に入れた研究、仕事と生活の両立など、一人ひとりが描く多様なキャリアデザインを、組織として全力でサポートします。

皆さんに求めるのは、現状に満足しない「探究心」と、仲間と共に高め合う「熱意」です。皆さんの若き力は、本院にとっても新しい風であり、希望そのものです。

愛媛の地から、世界へ、そして未来へ。私たちと共に、新たな歴史を創り上げましょう。皆さんの挑戦を、指導医・スタッフ一同、心よりお待ちしております。

愛媛大学医学部附属病院長 羽藤 直人

この度、2027年度用の各診療科の専門研修案内（診療科案内版）を配付させていただきますのでご活用願います。この専門研修案内は毎年更新し、今回で20回目になります。

新専門医制度の整備が整い、2018年度より開始されております。当院では卒業臨床研修修了後のさらなる専門医育成を目指すため、各専門研修プログラムではプログラム制及び育児や介護などのライフイベントを考慮したカリキュラム制での研修を用意しております。さらに、高度先進医療及び優れた研究能力を備えた臨床医の養成を目的に臨床に直結した大学院等へのスムーズな移行についても多くの診療科で推奨していただいております。また、この診療科案内の本冊子は、19の基本領域に統一した関係上、十分に書き込めなかった情報も多くあります。将来のサブスペシャリティ取得も含め、詳細は記載してある各診療科の問い合わせ先にぜひご連絡をお願いいたします。

さらに、大学病院を基幹研修施設とした専門研修については、皆さんに全国屈指の専門医に育てていただきたく、専門分野の相互補完を目的に多くの連携病院と協力し極めて充実したプログラムを用意しております。また当院は広範囲にわたる高度な設備を配置した、国内でも指折りのシミュレータ室を完備しており専門研修のトレーニングとしても充実しております。専門研修は大学病院こそが得意な分野であり、他の病院では得られないような貴重な臨床経験を積むことができます。実際、毎年約60名の専攻医が大学病院の専門研修プログラムを選択しております。ぜひ当院での専門研修を通じて皆さんが幅広い知識及び診療技術を修得され、将来立派な医師として大成されることを期待しております。

総合臨床研修センター長 熊木 天児

新しい制度における専門研修の募集

卒後臨床研修修了

カリキュラム研修 (専門研修の一部等)

専門医プログラム研修 (3~5年)

内科	皮膚科	外科	産婦人科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	麻酔科	小児科	精神科	整形外科	眼科	泌尿器科	放射線科	救急科	リハビリテーション科	形成外科	病理	臨床検査	総合診療科
----	-----	----	------	-------	-------	-----	-----	-----	------	----	------	------	-----	------------	------	----	------	-------

19基本領域

Subspeciality専門医 (32領域)

参考：日本専門医機構HP

連動研修を行い得る領域		連動研修を行わない領域	連動研修を行わない領域
消化器内科	消化器外科	アレルギー	集中治療科
循環器内科	呼吸器外科	感染症	脊椎脊髄外科
呼吸器内科	心臓血管外科	老年科	新生児
血液内科	小児外科	がん薬物療法	小児循環器
内分泌代謝・糖尿病内科	乳腺外科	内分泌外科	小児神経
脳神経内科	放射線診断		婦人科腫瘍
腎臓内科	放射線治療		手外科
膠原病・リウマチ内科			

少なくとも1つのサブスペ領域を取得後、研修を行い得る領域

肝臓内科	消化器内視鏡	内分泌代謝内科	糖尿病内科	放射線カテーテル治療
------	--------	---------	-------	------------

愛媛大学病院で全領域を取得・対応可能

愛媛大学医学部附属病院では、19基本領域全ての専門医のプログラムを用意しています。また、その後のSubspeciality分野（基本領域から分化した32領域）も全分野で取得・対応可能になっています。

さらに他の区分未定領域にも積極的に対応をしています。

また、一部の専門的な手技を習得するカリキュラム研修も受け入れています（特化した専門領域の研修や、妊娠出産などで期間的に限定した部分的研修を行い専門医プログラムの補完に利用可能）。

内 科

1. 内科の紹介

1人でも多くの内科専門医を養成し、愛媛県を中心とした地域の医療に貢献する志を持った医師の育成を最優先したプログラムを用意しています。そのため、愛媛大学医学部附属病院のみならず、県内の基幹病院プログラムと連携し、また、愛媛県内において指導体制を確立しているほぼ全ての病院と連携し、安定的に研修リソース

を提供します。また女性医師の働きやすい環境整備も配慮しております。安心して専門医研修ができる体制を構築し、次世代の医療を担う優れた内科専門医に育てることを約束し、責任を持って指導します。

2. プログラムの目的と特徴

内科専門医として、内科全般にわたる広い知識を持ち、最新かつ高度な医療を提供するとともに、全人的な内科診療と多職種にまたがるチーム医療を提供する能力を身につけることを目的とします。内科専門医研修と並行して、サブスペシャリティ専門医の取得を目指すコースを設定し、大学院でのリサーチマインドの涵養、プライマリケアによる地域包括ケアへの貢献を、各個人の希望に合わせて促します。愛媛県内唯一の医育機関である愛媛大学医学部と併設しておりますので基礎医学講座に

よるアカデミア教育機会の提供、病理学講座との連携によるCPCが可能です。また、シミュレータを用いたJMECC受講などにより、専門医資格と資格試験に備えうる臨床経験を得ることが可能です。なお、3年間の研修期間のうち基幹施設（愛媛大学医学部附属病院）で1年以上、立場や地域における役割の異なる連携施設で1年以上の研修が求められています。

3. 経験目標

内科専門医取得に必要な領域【総合内科Ⅰ（一般）、総合内科Ⅱ（高齢者）、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急】の疾患

を効率よく経験し、最終的に70疾患群、200以上の症例取得を目指します。

4. 専門研修修了後について

内科専門医研修の後は、サブスペシャリティの研修希望に応じて、専門領域の担当診療科に所属し、サブスペシャリティ専門医の取得を目指します。また、大学院への進学も促すことで、リサーチマインドを涵養します。

5. 専門研修の問い合わせ先

担当：高田康徳（糖尿病内科学 教授）

TEL：089-960-5647

E-mail：ytakata@m.ehime-u.ac.jp

第一内科



■ プログラムの目的と特徴

第一内科は血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、感染症内科を中心に診療に当たっています。疾患の特性上、特定の臓器に局限しない全身性疾患であり、高いレベルの全身管理やトータルケアの能力が求められる領域です。同種造血細胞移植、CAR-T細胞治療、二重特異性抗体療法、分子標的療法、がん薬物療法、高度な免疫抑制療法などの先進の高度医療の実践に加え、指定感染症・感染症コンサルトの対応や院内感染制御チームとしての役割も担っています。当科では研修医の希望に応じた各グループ研修の選択が可能です。内科臨床医として必要な幅広い知識と診療技術の習得を第一目標とし、科学的根拠に基づいた診療姿勢やプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身に付けることも目標にしています。

■ 指導医と指導体制

教授	竹中 克斗	血液内科（造血細胞移植・がん薬物療法）
特任教授	山之内 純	血液内科（血栓・止血）
准教授	末盛浩一郎	感染症・膠原病
講師	越智 俊元	血液内科（免疫、CAR-T）
特任講師	松本 卓也	膠原病
特任講師	宮崎 幸大	血液内科（造血細胞移植）
特任講師	石崎 淳	膠原病（関節エコー）
講師	丸田 雅樹	血液内科、医学教育
助教	名部 彰悟	血液内科
助教	平岡 大輔	膠原病
助教	小西 達也	血液内科（免疫、CAR-T）
助教	増田 侑也	血液内科



カンファレンス



回診

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	病棟業務	総回診	病棟業務	病棟業務	病棟業務
PM		医局会	カンファレンス (膠原病・感染症)	カンファレンス (血液)	

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：竹中克斗（第一内科） TEL：089-960-5296
E-mail：takenaka.katsuto.hy@ehime-u.ac.jp



第二内科

■ プログラムの目的と特徴

第二内科は循環器・呼吸器・腎高血圧内科を診療しています。

循環器領域では、経皮的冠動脈インターベンション、不整脈アブレーション、TAVIやMitraClipなどの先進的・低侵襲治療を行っています。2024年より中四国唯一の心移植実施施設として、重症心不全治療に携わっています。呼吸器領域では、新しい気管支内視鏡システムを導入し、遺伝子診断に基づいた最適な治療法を実践し、がん化学療法に関する治験にも数多く参加しています。腎高血圧領域では腎生検組織診断の下、最適な治療実践や腎代替療法導入に努めています。当院と関連病院の連携によって、シームレスな初期・専攻医研修が可能です。



■ 指導医と指導体制

循環器内科	堀江里佳子 (医員)
山口 修 (教授)	仁志川知晃 (医員)
池田俊太郎 (教授)	呼吸器内科
井上 勝次 (教授)	野上 尚之 (教授)
西村 和久 (准教授)	大西 広志 (教授)
玉置 俊介 (准教授)	山本将一郎 (助教)
稲葉 慎二 (講師)	加藤 高英 (助教)
東 晴彦 (講師)	中村 行宏 (助教)
川上 大志 (助教)	杉本 英司 (助教)
檜垣 彰典 (助教)	田口 禎浩 (医員)
三好 徹 (助教)	廣瀬 未優 (医員)
赤澤 祐介 (助教)	清家 廉 (医員)
藤澤 友輝 (助教)	村上 果住 (医員)
中尾 恭久 (助教)	腎・高血圧内科
宮部 亮 (助教)	茎田 昌敬 (助教)
永井 啓行 (医員)	七條 聖 (助教)
青野 潤 (医員)	近藤 史和 (医員)
清家 史靖 (医員)	

専門研修では指導医とペアで5-10名の患者を受け持ちます。冠動脈造影・インターベンション、ペースメーカー植え込み、気管支内視鏡検査、胸腔ドレナージ、人工呼吸管理、抗がん剤投与、告知、緩和医療、腎生検、透析等を行うときは実践的な指導が受けられます。

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	循C、呼C、ICD、CRT、ABL、BF、血液透析	心エコー等	心エコー等 BF 呼C	CAG、PCI、ICD、CRT、ABL等	心エコー等 CAG、PCI
PM	総合C・教授回診 ABL、BF 医局会・リサーチ ミーティング	心不全C 呼吸器C 呼内・呼外・放科合同C 腎生検、透析C 心臓外科合同C	呼吸器回診 BF 循環器C	CAG、PCI、CRT、ABL等	CAG、PCI、ICD、TAVI、MitraClip CRT、ABL、BF 腎・高血圧C・回診

(略号 CAG:冠動脈造影、PCI:経皮的冠動脈インターベンション、ICD:植込み型除細動、CRT:心臓再同期療法、ABL:アブレーション、BF:気管支内視鏡検査、C:カンファレンス)

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：山口 修 (教授)	E-mail : yamaguchi.osamu.bu@ehime-u.ac.jp
西村 和久 (循環器内科)	E-mail : nishimura.kazuhisa.mf@ehime-u.ac.jp
山本将一郎 (呼吸器内科)	E-mail : yamamoto.shoichiro.ar@ehime-u.ac.jp
茎田 昌敬 (腎高血圧内科)	E-mail : kukida.masayoshi.bd@ehime-u.ac.jp



第三内科

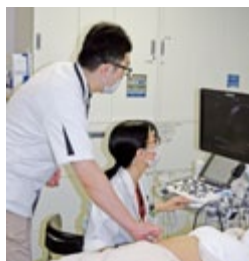


■ 指導医と指導体制

教授	日浅 陽一	消化器（肝臓）
准教授	徳本 良雄	消化器（肝臓）
教授	阿部 雅則	消化器（肝臓）
特任教授	池田 宜央	消化器（消化管）
教授	竹下 英次	消化器（消化管）
教授	森 宏仁	消化器（消化管）
特任教授	廣岡 昌史	消化器（肝臓）
教授	三宅 映己	内分泌・代謝
講師	吉田 理	消化器（肝臓）
講師	山本 安則	消化器（消化管）
特任講師	渡辺 崇夫	消化器（肝臓）
特任講師	小泉 光仁	消化器（胆・膵）
特任講師	中村 由子	消化器（肝臓）
特任講師	中口 博允	内分泌・代謝
特任講師	行本 敦	消化器（肝臓）
特任講師	丹下 和洋	消化器（消化管）

■ プログラムの目的と特徴

当科は、消化器疾患（消化管・肝・胆・膵）、内分泌疾患、代謝性疾患（糖尿病、肥満、病態栄養学等）などの幅広い領域の内科診療に携わっています。患者数も多く、内科全般の習得のみならず、消化器内視鏡、超音波等の各種検査・治療手技や画像読影などの専門技能の習得まで可能です。さらに、学会発表、症例報告、論文作成等のアカデミックな活動に関しても積極的に支援しています。当科は、大学内で最大規模の同門の先生方と連携病院を有しており、これらの基幹病院、研修指定病院と密に連携することで、手厚くより充実した研修、さらには学位取得、医学研究・教育の経験、国内外の留学などへと繋がる充実した研修を受けることが可能です。



腹部超音波検査



上部消化管内視鏡検査

当科は大学内で最大規模の同門会員と連携病院を有しています。同門会の支援のもと、関連病院において手厚い指導と支援を受けることができます。将来のキャリア形成にも大きなプラスになります。ぜひ研修にご参加下さい。

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外 勤	内視鏡検査・治療	外 勤	教授回診	超音波検査
PM					

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：池田宜央（光学医療診療部 部長・特任教授）
E-mail：yikeda@m.ehime-u.ac.jp

TEL：089-960-5308



脳 神 経 内 科



■ プログラムの目的と特徴

脳神経内科は、脳卒中・認知症・頭痛・てんかんなどの非常に多いコモンな疾患から、多発性硬化症・パーキンソン病・脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、筋疾患、末梢神経疾患など、多くの神経難病患者を対象としています。大学病院では主に神経難病の専門的診断と特殊治療、関連病院では主に脳卒中・脳炎・てんかん・認知症などの診断と治療を経験します。近年、診断技術や分子標的治療・遺伝子治療の進歩とともに、以前は治療法がないと言われた疾患にも積極的な治療介入が可能になっています。また、認知症を初めとする中枢神経疾患の患者は高齢者で急増するため、高齢化社会で特に需要が大きい領域です。

脳神経内科は内科サブスペシャルティの8つの連動研修型領域の一つであり、キャリアパスとしては、専門研修開始4年目に内科専門医を取得、5年目に脳神経内科専門医を取得します。その後は、研究のため大学院に進学したり、さらに疾患別の学会認定専門医（認知症・脳卒中・てんかん・頭痛など）の取得を目指したりします。

■ 指導医と指導体制

教授	山崎 亮	脳神経内科
教授（寄附講座）	越智 博文	脳神経内科
准教授	越智 雅之	脳神経内科
講師	三浦 史郎	脳神経内科
助教	明地 雄司	脳神経内科
助教	藤下 幸穂	脳神経内科
助教	桑垣 詩織	脳神経内科
助教	藤原 麗	脳神経内科

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
PM	医局会・抄読会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟回診



専門的検査1：末梢神経伝導検査



専門的検査2：血管エコー検査

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：越智雅之（脳神経内科・老年医学講座・准教授）
E-mail：ochimasa@m.ehime-u.ac.jp

TEL：089-960-5851



糖尿病内科



■ プログラムの目的と特徴

糖尿病は、単なる代謝異常ではなく、あらゆる臓器に障害を起こす全身疾患です。そのため、血糖管理はもちろんのこと、内科全領域にわたる総合的な診療、治療ができることを目標とします。当科では、1型糖尿病、ケトアシドーシスなどの急性合併症、二次性糖尿病、妊娠糖尿病など、専門科でなければ経験できない症例が多く、

インスリンポンプ等の最新の治療を経験できます。周術期やステロイド使用時など、各科入院患者の血糖管理も行っています。サブスペシャリティ領域である内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医、さらにその上の糖尿病専門医については、連動・補完研修を行います。大学院に所属しながら研修を行えるプログラムも用意しています。

■ 指導医と指導体制

教授	高田 康德	糖尿病・臨床検査
准教授	川村 良一	糖尿病・臨床検査
特任講師	池田 陽介	糖尿病・内分泌代謝
助教	高門美沙季	糖尿病・臨床検査
助教	林 智里	糖尿病・内分泌代謝

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
PM	病棟業務・講義	回診・勉強会	病棟業務・講義	チームカンファ	回診・他科診

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：高田康德（糖尿病内科学 教授）
E-mail：ytakata@m.ehime-u.ac.jp

TEL：089-960-5647



臨床薬理神経内科

当科は日本で唯一神経疾患を主対象とした臨床薬理学講座として開設されました。附属病院においては「臨床薬理神経内科」として外来・入院診療にあたっています。臨床薬理学とは、科学的な合理的薬物治療を指向する学問領域です。薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、個々の患者さんにとっての最良の治療、いわゆるオーダーメイド治療を提供することを目指しています。神経疾患を中心に内科全般の診療の中で、薬物動態、薬物相互作用を考慮した合理的薬物療法を行っています。また「臨床研究支援センター」の運営に携わり、臨床試験を通して新薬の開発、最新の治療を行っています。薬物治療に興味があり、臨床薬理専門医や脳神経内科医を目指す皆さんの参加を待っています。

■ 指導医と指導体制

特任教授	永井 将弘	神経学会専門医・指導医、 内科学会総合内科専門医・指導医、 臨床薬理学会専門医・指導医
講師	安藤 利奈	神経学会専門医、 内科学会総合内科専門医、 臨床薬理学会専門医
助教	宮上 紀之	神経学会専門医、 内科学会認定医、 臨床薬理学会専門医
助教	多田 聡	神経学会専門医、 内科学会総合内科専門医、 臨床薬理学会専門医、 認知症学会専門医・指導医
助教	伊藤 裕子	神経学会専門医、内科学会専門医、 臨床薬理学会専門医
医員	越智智佳子	内科学会専門医

■ 研修に関する行事

	月	木	金
AM	神経・筋電気生理検査	神経・筋電気生理検査	病棟回診、症例検討会、抄読会、新規患者カンファレンス
PM			

その他：神経カンファレンス、リハビリカンファレンス

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：永井将弘（臨床薬理神経内科） TEL：089-960-5095
FAX：089-960-5938 <https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/clpharma/>

■ プログラムの目的と特徴

臨床薬理学を基盤とした適切な治療を行うことができる内科医、脳神経内科医の育成を目標としています。内科医としての武器である薬物治療について基本から学び、日常診療の中で臨床技能の研鑽を積み、そして臨床に基づいた研究を行うことができます。

■ 経験目標

- ◆ 選択研修の内容に加え、更に多くの症例を経験することにより、幅広い内科医としての素養を養っていく。
- ◆ 治療に対する知識を深め「自分の薬箱」の薬剤の種類を増やしていく。
- ◆ 脳神経内科医として専門的医療を行いつつ、内科医として幅広く地域医療に貢献する。
- ◆ 臨床に主眼を置いた研究を行い、疾病の原因解明・診断・治療に貢献する。
- ◆ 内科専門医、臨床薬理専門医、神経内科専門医の受験資格を得る。



小 児 科



1. 小児科の紹介

愛媛大学小児科は、医学系研究科、附属病院、周産母子センター、小児総合医療センターと、小児・思春期療育学講座、地域小児保健医療学講座、感染制御学講座の寄附講座から構成されています。また附属病院小児科病棟は、一般小児科病棟と新生児病棟（NICU、GCU）および小児総合医療センター（PHCU）の3つから成っています。小児血液・腫瘍、遺伝、循環器、内分泌・代謝、神経・筋、腎・免疫、アレルギー、新生児等小児の全分

野における高度急性期疾患から慢性疾患に至るまで、多岐にわたる疾患について包括的医療を行っています。また、小児同種骨髄移植やCAR-T療法、経カテーテル肺動脈弁置換術をはじめとするカテーテル治療、脳神経外科と連携した外科治療を含む難治性てんかん治療、1型糖尿病に対する最新のインスリンポンプ療法、生物学的製剤による重症アレルギー治療などの高度医療も当施設で対応しています。

2. プログラムの目的と特徴

小児科医には正常小児の成長・発達に関する知識が不可欠で、新生児期から思春期まで幅広い知識が必要です。さらに小児科医として必須の疾患をもれなく経験し、家族への説明と同意を得る技能を身につける必要があります。研修プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく幅広く研修します。愛媛大

学小児科は高度な専門医療に対応するため各領域に経験豊富な専門医を有し、さらに2次および3次の救急患者を受け入れる体制も整っているため、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応も研修できる施設です。また専門研修連携施設では急性疾患や慢性疾患の診療を経験でき、地域の特性と病院の役割に応じてすべての領域にわたり経験できます。

3. 経験目標

小児科専門研修は愛媛大学病院小児科研修プログラムに沿って研修が行われ、愛媛大学はその基幹施設になっています。基本的には、1) 2つ以上の施設で研修を行うこと、2) 地域医療にも貢献すること、が前提となっています。

愛媛大学病院または専門研修連携施設（愛媛県立中央病院、松山赤十字病院）では感染症・内分泌代謝・血液腫瘍・アレルギー・腎泌尿器・循環器・神経各疾患患者

を担当し、周産期センター・新生児部門で新生児・先天異常疾患の診療を経験できます。また他の専門研修連携施設（市立宇和島、県立今治、県立新居浜）および8か所の研修可能施設では主として地域小児医療の研修ができますし、北九州市立八幡病院や四国こどもとおとなの医療センターなど県外での研修も可能で、最終的に3年間ですべての小児領域を経験できるようにします。

4. 指導医と指導体制

教授	江口真理子	血液腫瘍
准教授	石前 峰斉	血液腫瘍
助教	森谷 京子	血液腫瘍
助教	加賀城真理	血液腫瘍
助教	和田麻友美	血液腫瘍
助教	宮本真知子	血液腫瘍
教授	田内 久道	感染症
教授	檜垣 高史	循環器
講師	千阪 俊行	循環器
助教	森谷 友造	循環器
助教	宮田 豊寿	循環器
准教授	太田 雅明	新生児
助教	渡部 竜助	新生児

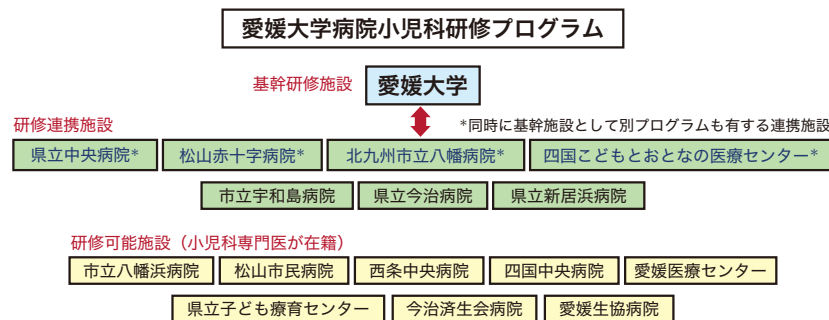
助教	徳永はるか	新生児
助教	今井 琴美	新生児
助教	濱口ひかる	新生児
准教授	元木 崇裕	神経筋
助教	矢島 知里	神経筋
助教	三浦 博充	神経筋
准教授	濱田 淳平	内分泌代謝
助教	宇都宮秀和	内分泌代謝
助教	地行 健二	内分泌代謝
助教	西村 幸士	アレルギー
講師	渡邊祥二郎	腎臓・膠原病
助教	鎌田ゆきえ	腎臓・膠原病

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金	土・日
8:00-9:00	朝カンファレンス(患者申し送り)					
AM (週1回外来)	病棟・外来	病棟・外来	症例検討・回診	病棟・外来	病棟・外来	当直など
PM	病棟・ 周産期カンファレンス	病棟	病棟・カンファレンス	病棟	病棟	合同勉強会 (2回/年)

※月曜日～金曜日は月4回程度の当直

6. 新専門研修プログラム



左図にある基幹病院、研修連携施設、研修可能病院から各専攻医と相談した上で、研修施設、期間を決定します。

7. 専門研修修了後について

研修終了後は、小児科の各分野の専門医(サブスペシャリティー 専門医)を目指して学内外の施設で研修を継続します。または大学院進学で学位取得を目指します。国内・海外留学も可能です。

8. 専門研修の問い合わせ先

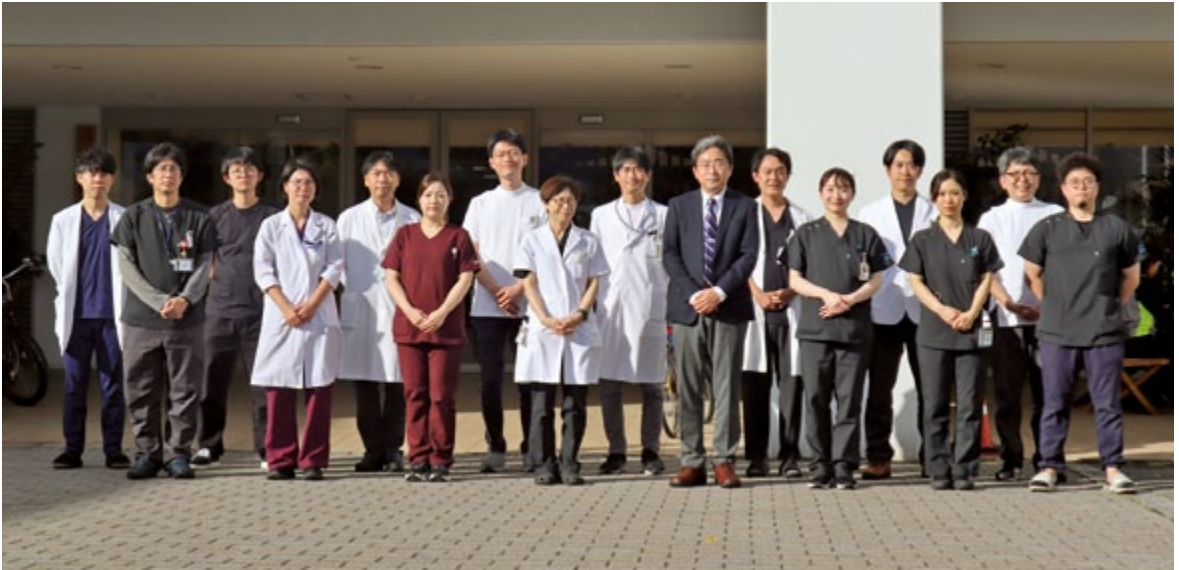
担当：江口真理子(教授)、千阪俊行(医局長)

元木崇裕(専門研修プログラム担当) E-mail : motoki.takahiro.sc@ehime-u.ac.jp

TEL : 089-960-5320 (小児科医局)



皮膚科



1. 皮膚科の紹介

皮膚科は内科系から外科系まで非常に幅広い領域をカバーする必要がありますが、当教室では専門医取得に必要な症例数や学会発表・論文執筆などすべてをクリアすることが出来ます。主任教授の藤澤は四国で2名しかいない日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医の資格を持ち、皮膚悪性腫瘍に関してトップレベルの臨床およ

び研究のノウハウを持っています。また、当教室は全国的にも珍しい形成外科とのハイブリッド教室ですので、通常では経験出来ないような再建なども学ぶことが可能です。研究面では表皮細胞に関する基礎的研究だけでなく皮膚の三次元培養システムの臨床応用にも取り組んでいます。皮膚病AⅠ診断システムの研究も進行中です。

2. プログラムの目的と特徴

皮膚科専門医は最低5年間の専門研修期間が必要で、様々な疾患を経験するだけでなく、最低10回の学会発表と3編の論文執筆が必要となります。そのため、しっかりとした研修システムがないと5年での専門医受検は困難です。当教室では大学病院では珍しい症例や難しい症例を多く経験してもらい、その中で学会発表や論文執

筆の指導をします。連携病院でももちろん学会発表や論文執筆は出来ますが、大学病院よりもクリニックに近いCommon diseaseの症例を多く経験することで実践的な技能や知識を身につけることも重要です。また、近年増加している地域枠の専攻医に対応出来るように連携病院における医員枠を増やしています。

3. 経験目標

専門医取得に必要なとされる臨床症例経験、皮膚病理診断、講習会出席、学会発表、論文執筆をクリアすることが最低限の目標となります。なお、学会発表も論文執筆も自身が筆頭での業績が求められますので、専門医受検の条件としては比較的ハードルが高いとも言われていますが、当教室では全く問題なくこれらはクリアできるように指導しています。また、自分の興味ある分野があれば追加して研修することも可能です。



4. 指導医と指導体制

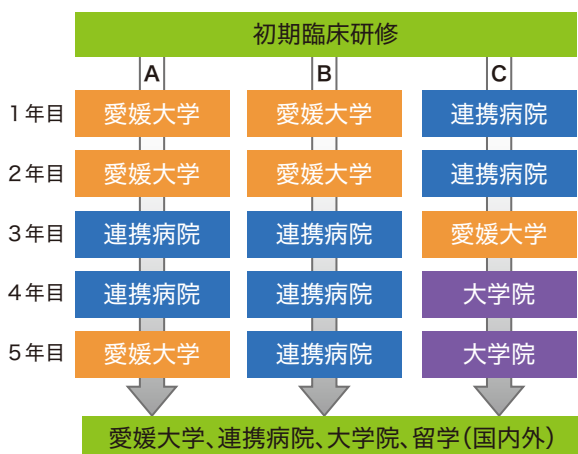
教授	藤澤 康弘	皮膚腫瘍、オンコロジー
准教授(医局長)	白石 研	膠原病、皮膚病理
講師(病棟医長)	武藤 潤	アトピー性皮膚炎 乾癬、結合組織疾患
特任講師(外来医長)	八束 和樹	乾癬、膿疱症
助教	西原 克彦	皮膚腫瘍
助教	吉田 諭	膠原病
助教	桑折 信重	水疱症



5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	外来・手術	外来・病棟業務	外来・手術	外来・病棟業務
PM	病棟医長回診・ ラボミーティング	外来・手術・ 病理検討会	教授回診・臨牀・ 病理カンファレンス	外来・手術・ 悪性腫瘍カンファレンス (月1回) 病理レクチャー	外来・病棟業務

6. 新専門研修プログラム



研修連携病院には、県立中央病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、済生会今治病院、市立宇和島病院、神戸大学医学部附属病院、東京医科大学病院があります。準連携施設である当院の形成外科で1年間の研修を行うことも可能です。5年目終了時の専門医取得を目指しつつ、専門医資格取得後のキャリアパスを相談させていただきます。

7. 専門研修修了後について

専門医取得後のキャリアパスはそれぞれの希望を聞きながら考えていきます。研究に興味があれば大学院への進学や国内外の留学や、臨床研修で国内留学をすることも可能です。また、連携病院の部長や医員として勤務す

ることも可能です。現在、当教室の出身者は県立中央病院、済生会松山病院、松山市民病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立宇和島病院などで勤務しています。もちろん、開業という選択肢もあります。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：白石 研（皮膚科学・准教授）
E-mail：e-derma@m.ehime-u.ac.jp

TEL：089-960-5350



精神科

第33回 日本臨床精神神経薬理学会学術集会



1. 精神科の紹介

愛媛大学大学院医学系研究科 分子・機能領域 精神神経科学講座は、2026年より伊賀淳一教授の体制となり、愛媛県下の精神科医療を支えています。愛媛大学医学部の理念、「患者から学び、患者に還元する医療」のもと、教室として、

- ・患者のために最善を尽くし、常に患者中心の視点で行動する
- ・情報は最大限に収集し、観察を怠らない
- ・真実を追求し、常に前進し失敗を恐れない

をモットーとして、精神神経科学の発展のための生涯につながる研修を目標としています。臨床では、偏りなく精神科研修が行えるよう、総合病院、単科精神科病院などと連携しています。

2. プログラムの目的と特徴

まずは大学病院で、統合失調症や気分障害などの基本的な精神疾患から鑑別が重要な器質性精神障害までの診断・治療の基礎を学習します。発達障害や摂食障害、認知症も十分に経験できます。そのあとは、総合病院や精神科病院などで、幅を広げた医療を経験します。精神科医として必須の精神保健指定医と日本精神神経学会専門医は、必ず取得していただきます。その後、それぞれの希望により精神科の専門分野に進んでいただきます。研修のいずれの時期でも大学院進学は可能です。

3. 経験目標

精神保健指定医と精神神経学会専門医の取得に必要な症例の臨床経験・レポート作成、学会発表（年1回は必須）、論文作成（筆頭著者）が最低限の目標です。指導医と指導体制：チーム制による指導体制をとっており、後期臨床研修1年目は指導医のもとで主治医として診療に従事し、基本的な精神疾患の診療技術を学びます。随時、後期研修医向け勉強会、頭部画像・脳波判読会を実施しています。また、精神科病院との合同症例研修会、四国四大学合同研修会も行っています。また、お花見、クリスマス会など患者さんとのレクリエーションにも積極的に参加して頂きます。



四国4大学研修会後のソフトボール大会

4. 指導医と指導体制

教授	伊賀 淳一	分子精神医学・精神薬理学
教授	堀内 史枝	児童精神医学
講師	越智紳一郎	精神薬理学
講師	吉野 祐太	分子精神医学
特任講師	藏満彩結実	分子精神医学
助教	曾我 純也	一般精神医学
助教	久門 啓志	一般精神医学

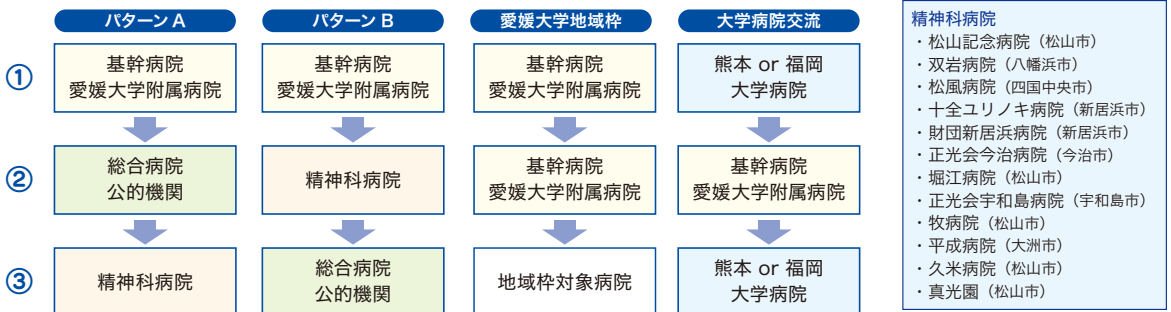
助教	細川 里瑛	児童精神医学
助教	井上 彩織	児童精神医学
助教	立花亜由美	老年精神医学
助教	舟橋 裕	一般精神医学
助教	松本 優	一般精神医学
助教	森 大晃	一般精神医学
助教	岡野真梨子	一般精神医学

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	病棟カンファレンス	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
PM	回診	老年精神医学カンファレンス	神経心理学カンファレンス	児童青年期精神医学カンファレンス	医局会

6. 新専門研修プログラム

(ローテーションの例)



※精神科病院、総合病院・公的機関はいずれか1か所で1年間在籍します。

※地域枠対象病院は十全ユリノキ病院、正光会今治病院、正光会宇和島病院、平成病院、愛媛県心と体の健康センターになります。

- 精神科病院**
- ・松山記念病院 (松山市)
 - ・双岩病院 (八幡浜市)
 - ・松風病院 (四国中央市)
 - ・十全ユリノキ病院 (新居浜市)
 - ・財団新居浜病院 (新居浜市)
 - ・正光会今治病院 (今治市)
 - ・堀江病院 (松山市)
 - ・正光会宇和島病院 (宇和島市)
 - ・牧病院 (松山市)
 - ・平成病院 (大洲市)
 - ・久米病院 (松山市)
 - ・真光園 (松山市)

- 総合病院・公的機関**
- ・松山赤十字病院
 - ・愛媛県心と体の健康センター
 - ・熊本大学病院
 - ・福岡大学病院

7. 専門研修修了後について

精神科専門医取得後は、診療科の一員として大学病院あるいは関連病院で、精神科診療を行うこととなりますが、国内外の留学も可能です。他大学との交換プログラムも検討中です。できる限り、学位(博士)の取得を推奨しています。取得できる資格・専門医は、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、一般病院連携精神医学専門医、日本老年精神医学会専門医、日本認知症学会専門医、日本児童青年精神医学認定医、日本臨床精神神経薬理学会専門医、子どものこころ専門医、日本睡眠学会認定医などがあります。



カンファレンスの様子

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：伊賀淳一（精神科教授・研修担当）

TEL：089-960-5315 E-mail：iga.junichi.it@ehime-u.ac.jp



外科

1. 外科の紹介

愛媛大学外科は、「心臓血管・呼吸器外科学講座」・「消化管・腫瘍外科学講座」・「肝胆膵・乳腺外科学講座」の外科系3講座にある「心臓血管外科」・「呼吸器外科」・「小児循環器外科」・「消化器外科」・「小児外科」・「肝臓・胆のう・膵臓・移植外科」・「乳腺外科」の7つの診療科があり、愛媛大学外科全体が一丸となって専門医制度に対応しています。

最先端外科治療・研究・教育を担う愛媛大学医学部附属病院が基幹施設となり、高度な外科治療を行う県内の中核病院、救急も含め手術症例の豊富な地域中核病院、様々な疾患を経験できる地方拠点病院などをローテーションしながら、外科専門医取得に必要な専門知識・技能を効率的に習得できるカリキュラムを提供し、その後のサブスペシャリティ領域専門医取得に道を開きます。

2. プログラムの目的と特徴

外科全領域の知識とスキルだけでなく、「臨床的判断を行い問題解決する能力」、「診断から手術を含めた治療戦略の策定」、「併存症および合併症に関する周術期マネジメント力」、「倫理的に適切な態度や習慣」、「最新の外科技術習得に対応出来る生涯学習やその研究を行うための学習基盤の習得」です。

愛媛県内の殆どの中核病院での研修可能で、県内の様々な地域で研修し、その実情に応じた幅の広い視野を身に付けることは、キャリア形成に大いに役立つと考えます。

またプログラム研修と平行しながら、大学院に進学し「研究」ができるのもこのプログラムであるからこそ可能な魅力です。臨床で感じるふとした疑問を、自分で解決する術を持つAcademic Surgeon育成も目指しています。

外科の楽しさ、面白さが実感できるプログラムです。

3. 経験目標

3年間の専門研修において、日本外科学会が掲げる専門医制度取得のために必要な手術経験や学術活動（手術経験：3年間で350例以上／術者として120例以上、学術活動：日本外科学会定期学術集会への参加及び研究発

表・論文発表等による20単位以上の取得）だけではなく、サブスペシャリティ領域専門医研修取得に向けた知識と技能の習得を目指します。

4. 専門研修修了後について

専門研修修了後には、希望や状況により、引き続き大学病院や連携施設のスタッフとして診療に従事することが可能です。

また、サブスペシャリティ領域専門医研修への移行や

博士取得のため大学院進学、国内/海外の施設へ短期・長期留学など、個々の希望するキャリアパスに応えることが可能です。

5. 専門研修の問い合わせ先

担当：泉谷裕則（愛媛大学大学院医学系研究科心臓血管・呼吸器外科学講座・教授）

TEL：089-960-5331

E-mail：gekassenmon@e-surgery.jp

消化器腫瘍外科



■ プログラムの目的と特徴

当科は、食道外科、胃外科、大腸外科、小児外科を中心に、幅広い疾患に対して高度かつ質の高い医療を提供しています。「体に優しい手術」を理念とし、特にロボット支援手術をはじめとする最先端の低侵襲手術に積極的に取り組んでいます。近年の薬物療法や放射線治療の進歩と連携し、集学的がん治療を展開、最適な治療戦略を構築しています。また、良性疾患や炎症性腸疾患、さらには高度肥満に対する減量手術など、多岐にわたる疾患にも対応しています。最新の医療技術や研究活動に積極的に関われる環境を整えており、国内外に向けて発信できる優れた外科医の育成を使命とし、外科研修を全力でサポートいたします。

■ 指導医と指導体制

教授	押切 太郎	上部消化管
教授（地域低侵襲消化器医療学）	石丸 啓	下部消化管
准教授	古賀 繁宏	上部消化管
准教授	吉田 素平	上部消化管
准教授（救急医学）	菊池 聡	上部消化管
講師（地域低侵襲消化器医療学）	秋田 聡	下部消化管
講師	柘屋 隆太	小児外科
助教	杉下 博基	下部消化管
助教	桑原 淳	小児外科
助教（救急医学）	松本 紘典	下部消化管
助教	大木 悠輔	下部消化管

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	手術	朝カンファ 手術（小児外科）	手術	朝カンファ 外来・病棟業務	手術
PM		外来・病棟業務		外来・病棟業務	



■ 専門研修の問い合わせ先

担当：押切太郎（消化管・腫瘍外科 教授）
E-mail：shoukaki@m.ehime-u.ac.jp

TEL：089-960-5975



肝臓・胆のう・膵臓・移植外科・乳腺外科



■ プログラムの目的と特徴

当科は四国でトップの肝移植実績を誇り、四国唯一の脳死肝移植施設として認定を受けています。さらに、最先端のロボット支援による肝・膵切除や、進行がんに対する拡大手術も積極的に行っています。

専門研修では、術者として胆嚢摘出術やヘルニア手術を確実に修得し、血管吻合やロボット手術の技術を段階的に習得していきます。

乳腺部門では、画像診断・生検などの術前診断から、手術、薬物療法に至るまで、体系的に乳腺診療を学ぶことが可能です。術前の症例検討を通じて、術者あるいは助手として手術に参加し、知識と技術を深めながら、マンモグラフィや乳房超音波の読影認定医、乳腺専門医の取得を目指します。

いずれの分野も女性医師が多数活躍しており、積極的に研修医の受け入れを行っています。

■ 指導医と指導体制

教授	榎田 祐三
准教授/乳腺センター センター長	亀井 義明
准教授	船水 尚武
講師	田村 圭
講師/乳腺センター 副センター長	村上 朱里
助教(地域医療支援センター)	田口 加奈
助教	浦岡 未央
助教	新恵 幹也
助教	西 悠介
助教	坂本 明優
助教	野田 令菜

■ 研修に関する行事

肝胆膵	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	カンファレンス・手術	カンファレンス・外来	カンファレンス・手術	外来・病棟業務
PM		手術	抄読会	手術	

乳 腺	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	カンファレンス・外来	カンファレンス・手術	カンファレンス・外来	外来・病棟業務
PM		外 来	手 術	手 術	

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：榎田祐三（肝胆膵・乳腺外科 教授）

TEL：089-960-5327

E-mail：surgery1@m.ehime-u.ac.jp



心臓血管・呼吸器外科



■ プログラムの目的と特徴

心臓血管外科は、小児から超高齢者まで全年齢層を対象に手術を行っており、低侵襲心臓・血管手術を積極的に導入しています。また、心臓移植は中四国唯一の、成人の埋込型・小児補助人工心臓治療は四国唯一の実施施設です。

呼吸器外科は、呼吸器外科手術を単孔式胸腔鏡やロボット手術を含む低侵襲手術から血管形成を含む拡大手術まで行っています。

地方にあって全国でトップレベルの充実した研修を提供します。

■ 指導医と指導体制

教授	泉谷 裕則	成人心臓
准教授	打田 俊司	小児心臓
准教授	黒部 裕嗣	成人心臓
准教授	大谷 真二	呼吸器
講師	坂上 倫久	研究・実験
特任講師	福西 琢真	成人心臓
助教	坂尾 伸彦	呼吸器
助教	藻利 優	呼吸器
助教	桐山 洋介	呼吸器
助教	坂本 裕司	小児心臓

■ 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	手術・外来業務	手術	手術・外来業務	手術・外来業務	手術・外来業務
PM		医局会・症例検討会			

■ 専門研修の問い合わせ先

担当：大谷真二（呼吸器センター／心臓血管・呼吸器外科 准教授）

TEL：089-960-5331 E-mail：shinkoge@m.ehime-u.ac.jp



整形外科



1. 整形外科の紹介

愛媛大学医学部整形外科学講座は1976年4月1日に開講し現在、第5代教授高尾正樹先生が主催しています。主として股関節・膝関節・肩関節・足関節などの関節外科、脊椎外科、骨軟部腫瘍を診療しています。また、外傷・リウマチ性疾患・リハビリテーション・手の外科・小児整形外科等も積極的に診療しています。2020年よ

り再生医療であるPRP (platelet-rich plasma) 外来も開設しました。人工関節手術は年間約350例行っておりCAS (computer assist surgery) やMIS (minimum invasive surgery) を導入し、精度が高く、負担の少ない手術を行っています。

2. プログラムの目的と特徴

初期研修終了後は、当講座を基幹とした愛媛大学整形外科専門研修プログラムに所属し、4年間で整形外科専門医を取得していただきます。その間に、成人と小児の整形外科と災害・救急外科の研修を通じて、全身管理能力と治療法の選択能力・治療技術の獲得を目指します。具体的には1年間の大学での研修と3年間の関連病院で

の研修を行っていただきます。特徴的な研修としては、手術手技向上のためにご献体を用いたトレーニングセミナーを開催しています。脊椎、膝関節、股関節、外傷などのトレーニングセミナーを大学内のみならず、連携病院の医師も参加して行い手術手技の向上を目指すことができます。

3. 経験目標

- ・整形外科疾患に特有な愁訴と性質を理解した病歴をとることができ、基本的な診察ができる。
- ・骨関節のX線像について正常と異常を鑑別できる。
- ・関節注射、硬膜外注射、神経ブロックの適応を理解し、実施できる。
- ・骨折、脱臼の整復固定や、開放創、開放骨折、多発骨折の初期治療が行え、合併症に適切な処置ができる。
- ・局所麻酔、伝達麻酔が実施でき、腱鞘切開、減張切開、創縫合ができる。
- ・整形外科患者の術前、術後の適切な全身管理ができる。
- ・機能障害、能力障害、社会的不利について理解し、何が患者に必要なかを判断し対応できる。

産婦人科



1. 産婦人科の紹介

産科婦人科研修によって、産科ではヒトの妊孕生理とその病態、また、分娩の過程に深く関わることができます。婦人科手術では、系統化された術式を通じて基本手技を習得し、骨盤底部に及ぶ解剖を学ぶことができます。不妊治療分野に関しては連携施設での研修によって先端の生殖補助医療によるヒトの発生から誕生という神秘に触れることができます。女性医学分野では女性の一生を

通した内分泌学的な治療を学ぶことができます。この様に、産科婦人科学は医学の中でも極めて興味深い領域を含んでいます。生命の誕生からその終末期まで医学のあらゆる分野に関わりを持つ産婦人科を選択する皆さんを医局員全体で支援しています。科の中に様々な分野があるため、産婦人科となった後でも進む道としての選択肢がたくさんあることも魅力です。

2. プログラムの目的と特徴

産科婦人科の研修ガイドラインに従い、産科・婦人科・生殖内分泌・女性医学の各分野において、臨床に必要な基本的知識、産科婦人科における主要疾患の診断ならびに治療・技術を習得できます。産科では、研修早期より帝王切開術の執刀を経験でき、女性医学に関しては、臓器脱の手術の助手としての参加や、外来での診療見学

を行うことができます。婦人科では腹腔鏡手術の助手や執刀医としての経験を積むことも可能です。手術研修には全国でも数少ないCadaver Training systemを導入しており、腹腔鏡下子宮全摘術や骨盤リンパ節郭清のトレーニングが可能です。

3. 経験目標

産科疾患・婦人科疾患・生殖内分泌疾患・女性医学関連疾患の診断・治療に関する経験と知識を習得します。

- 超音波検査で、胎児の推定体重・血流測定などの産科的評価法に関する手技を習得する。
- 分娩の流れについて理解し、指導医の指導の下、内診によって分娩進行を評価し、分娩助産・帝王切開術の手技を含めた分娩管理法を習得する。
- 婦人科疾患では、超音波検査・CT・MRIなどの読影を行い、コルポスコピーや内診による腫瘍病変の評価方法を習得する。
- 婦人科手術手技について理解し、基本手技や周術期管理を習得する。
- 婦人科悪性腫瘍の薬物療法について理解し、指導医の指導の下で実践する。
- 腹腔鏡手術において、カメラ操作や基本手技を習得する。
- 人工受精・体外受精などの手順や基本手技を理解する。
- 受精卵を観察し胚移植の手技を理解する。

4. 指導医と指導体制

主任教授	澤田健二郎	婦人科腫瘍、女性医学、 低侵襲手術
准教授	松元 隆	婦人科腫瘍
講師	松原 裕子	周産期、臨床遺伝、婦人科腫瘍
講師(医局長)	宇佐美知香	婦人科腫瘍、内視鏡、がん薬物療法
助教	内倉 友香	周産期、臨床遺伝、内視鏡
助教	森本 明美	婦人科腫瘍

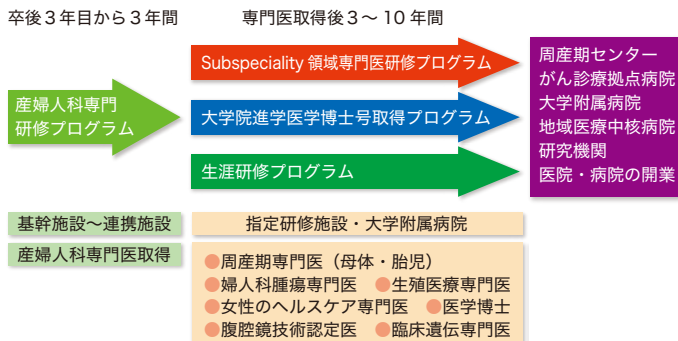
助教(病棟医長)	安岡 稔晃	内視鏡、婦人科腫瘍、 臨床遺伝、生殖医療
助教(外来医長)	宮上 眸	
助教	吉田 文香	
医員	矢野 晶子	
医員	中橋 一嘉	

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	手術・	外来・病棟業務	外来・病棟業務	手術・	手術・
PM	病棟業務	外来・病棟業務	手術カンファレンス	病棟業務	病棟業務

＊臨床カンファレンス：
月～金曜日AM
腫瘍カンファレンス：
毎週月曜日PM
周産期カンファレンス：
毎月第4水曜日
病理カンファレンス：
毎月第3水曜日

6. 新専門研修プログラム



まずは産婦人科専門医を取得することに注力し、その後、各専門分野の研修を始めることとなります。それぞれの分野に得意な施設での研修が可能です。

基幹施設である愛媛大学医学部附属病院を中心に、愛媛県立中央病院・愛媛県立新居浜病院・愛媛県立今治病院・市立宇和島病院・松山赤十字病院などの連携施設にて研修します。まずは日本産科婦人科学会の専門医を

習得することを目指し、周産期・腫瘍・生殖・女性医学がまんべんなく学べるように研修プログラムを立てています。産婦人科研修プログラムを3年間研修後に産科婦人科専門医の試験を受けることが多いです。



7. 専門研修修了後について

日本産科婦人科学会の専門医を取得後は、それぞれ独自性をもった連携施設や大学においてsubspecialty領域の専門医取得を目指して研修できます。愛媛県内での

どのsubspecialtyの専門医も取得することが可能です。研究に興味があれば大学院に進学することができます。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：宇佐美知香（産科婦人科学講座・医局長）

TEL：089-960-5379 E-mail：usami.tomoka.cp@ehime-u.ac.jp



眼 科



1. 眼科の紹介

眼球およびその付属器の疾病の予防と治療を主として行う外科系診療科です。当科の特色は、白石教授の専門とする角膜疾患を中心として、網膜硝子体疾患、緑内障、ぶどう膜炎、斜視弱視、涙道疾患、眼窩疾患と眼科のほぼ全ての領域をカバーし、いずれの分野も最新鋭の検査・治療機器を用いて診療活動を行っていることにあります。

3. 経験目標

- (1) 眼科疾患を適切に診断し、治療方針を立てることができる。
- (2) 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査により、患者診察ができる。
- (3) 眼科の基本検査が行え、その読影ができる。
- (4) 各手術（白内障、緑内障、角膜移植、硝子体手術他）の助手ができる。
- (5) 指導医のもと、基本手術手技が行える。

2. プログラムの目的と特徴

当科の研修プログラムは、日本眼科学会専門医制度カリキュラムに準拠し、眼科研修医ガイドラインに示された眼科臨床に必要な基本的知識、眼科主要疾患に関する診断・治療技術及び眼科医として必要な基本的態度の習得を目標としています。

- (6) 病棟医として、独立して受け持ち患者の診察ができる。
- (7) 受け持ち患者の全身管理を行える。
- (8) 受け持ち患者、家族と良好な人間関係を確立できる。
- (9) 看護師、視能訓練士と協力して、患者の治療を行える。
- (10) カンファレンスや学術集会で、症例を提示し、討論することができる。



4. 指導医と指導体制

教授	白石 敦	角結膜・涙道
准教授	溝上 志朗	緑内障
准教授	鎌尾 知行	涙道・眼形成
准教授	坂根 由梨	角結膜
助教	小林 武史	網膜硝子体
助教	竹澤 由起	角結膜・円錐角膜
助教	浪口 孝治	緑内障
助教	三谷亜里沙	涙道・眼形成

助教	鳥山 浩二	角結膜・眼感染症
助教	平松友佳子	網膜硝子体・ぶどう膜
助教	飯森 宏仁	斜視弱視・小児眼科
助教	池川 泰民	網膜硝子体
助教	井上 英紀	角結膜・眼感染症
助教	鳥飼 智彦	網膜硝子体
助教	立花 亮祐	網膜硝子体
助教	奥野 周蔵	緑内障

当科は、愛媛県内唯一の日本眼科学会承認眼科研修プログラム施行施設です。眼科専門医受験資格を得るため

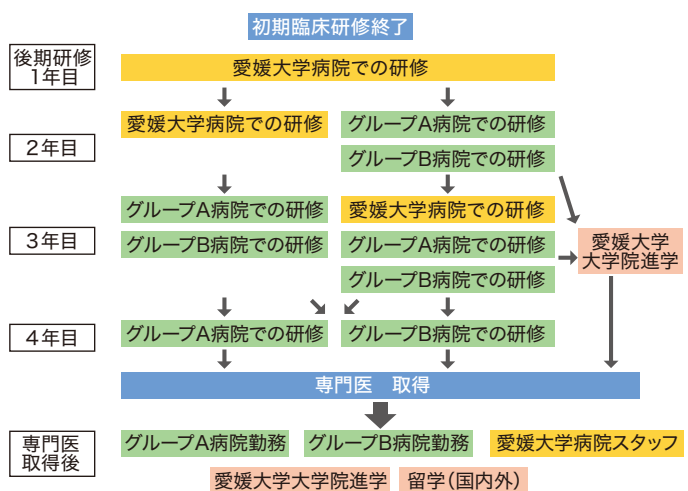
には4年以上の眼科臨床研修期間で当初2年間に1年以上プログラム施行施設での研修が義務付けられています。

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	病棟回診 手術/外来	抄読会/病棟回診 専門外来	病棟回診 手術/専門外来	病棟回診 専門外来	病棟回診 専門外来
PM	手術/外来	専門外来/病棟総回診 症例カンファレンス	手術/外来	専門外来	手術/外来

6. 新専門研修プログラム

1年目は、全専攻医が愛媛大学附属病院で研修します。愛媛大学附属病院は症例が豊富で、各専門領域すべての疾患、救急疾患、希少疾患、難病を経験することができます。また、内眼手術の件数および専門性の高い手術も多いため、眼科手術全般の助手を経験し、手術手技の基本も習得できます。2年目以降は、Aグループ、Bグループ、場合によっては愛媛大学附属病院で研修します。Aグループを選択すれば、やや高度な手術をより多く経験することができます。Bグループを選べばcommon diseaseをより多く経験することができます。いずれのコースを選んでも最終的に研修到達目標に達することができるようにローテーションを調整します。



7. 専門研修修了後について

「新専門研修プログラムについて」にまとめて記載しています。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：井上英紀（愛媛大学大学院医学系研究科眼科学講座 助教）
TEL：089-960-5361 E-mail：ophusirc@m.ehime-u.ac.jp

グループA病院	グループB病院
<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県立中央病院 松山赤十字病院 住友別子病院 市立宇和島病院 	<ul style="list-style-type: none"> 鷹の子病院 松山市民病院 南松山病院 済生会松山病院 済生会西条病院 白井病院



耳鼻咽喉科



1. 耳鼻咽喉科の紹介

耳鼻咽喉科の専門医には、多くの対象疾患に適切に対応する能力が求められます。当教室は、世界初の臨床応用を行った人工中耳、全国的にも症例の多い人工内耳、顔面神経麻痺や音声・嚥下障害、頭頸部癌に対する治療など、高い専門性・先端の技術をもって患者さんに高いQOLをもたらしています。こうした感覚器とコミュニ

ケーションの医学をベースとした新たな感覚機能外科学を臨床展開していく当科のコンセプトは、国内外で高い評価を受けています。また、最先端の診療のみならず、日常臨床において高頻度に遭遇する疾患の治療も積極的に行っており、最適な専門研修の環境が整っています。

2. プログラムの目的と特徴

本プログラムは卒後臨床研修終了医に対し、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定専門医の育成を目的とします。原則的に、卒後3年目は大学病院にて、複数の指導医の下で入院患者を受け持ち、耳鼻咽喉科特有の診察法や処置、手術、術後管理、終末期医療を習得します。卒後4年目からは、各地の研修連携施設にて外来、手術、救急医療などの耳鼻咽喉科全般の知識、経験を習得しま

す。卒後6年目は、愛媛大学大学院へ入学し、臨床業務を行いながら研究を行うか、研修連携施設で研修を行います。本プログラムの連携施設における耳科手術の件数は全国でもトップレベルで、各地のがんセンターで経験を積んだ指導医も多く、頭頸部手術の習熟にも最適な環境です。中四国で人気の倉敷中央病院や東京の日本医科大学、神尾記念病院も連携施設となっています。

3. 経験目標

4年間の研修で、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。愛媛大学医学部附属病院および地域の中核病院を担う病院にて3年以上の研修を行い、学会認

定専門医の取得を目標に研鑽を積みます。本プログラムの連携施設はいずれの施設も手術件数が多く、扱う疾患も多彩ですので、症例経験基準の達成は容易です。

4. 指導医と指導体制

教授	羽藤 直人	耳科、神経耳科
准教授/診療科長	山田 啓之	耳科、神経耳科
講師	寺岡 正人	耳科、神経耳科
講師	田中加緒里	口腔、咽喉頭、嚥下
特任講師	三谷 壮平	頭頸部癌
助教	青石 邦秀	鼻副鼻腔

助教	西原江里子	耳科、鼻副鼻腔
助教	木谷 卓史	頭頸部癌
助教	入船 悠樹	頭頸部癌
助教	中田 貴大	耳科、神経耳科
助教	本岡 太心	鼻副鼻腔

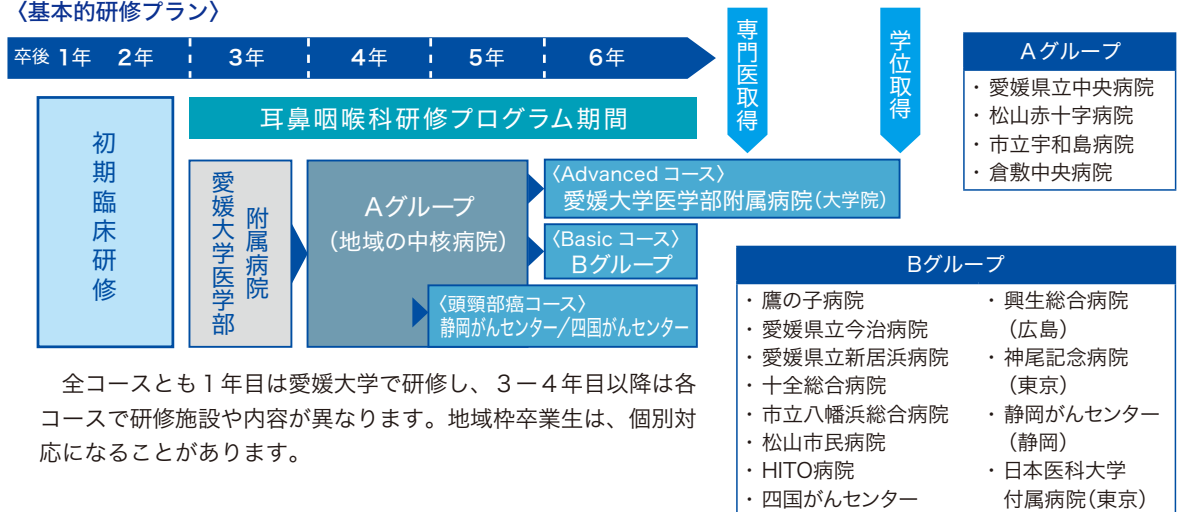
5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	手術	外来・病棟業務	外来・病棟業務	手術
PM	手術	医局会・抄読会	病棟回診・カンファレンス		

*月1回 愛媛ENT塾（若手向け勉強会）、愛媛ENT塾 junior（専攻医同士の勉強会）

6. 新専門研修プログラム

〈基本的研修プラン〉



全コースとも1年目は愛媛大学で研修し、3-4年目以降は各コースで研修施設や内容が異なります。地域枠卒業生は、個別対応になることがあります。

7. 専門研修修了後について

当教室の耳鼻咽喉科専門医取得率は100%、学位取得率は78.9%、スタンフォード大学（アメリカ）、カロリンスカ研究所（スウェーデン）などの海外留学経験率も高率で、愛媛から世界へはばたくトップランナーの育成

を目指しています。大学病院のみならず、耳・鼻領域のハイボリュームセンターや各地のがんセンターとも連携があり、高度専門臨床医の育成にも力を入れています。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：山田啓之（耳鼻咽喉科頭頸部外科 准教授）

TEL：089-960-5366 E-mail：jibika@m.ehime-u.ac.jp



泌尿器科



1. 泌尿器科の紹介

泌尿器科では副腎疾患や腎・尿管・膀胱といった尿路疾患、前立腺や精巣などの生殖器疾患の診断・治療をおこないます。愛媛大学泌尿器科では、外科手術として腎や副腎、前立腺、膀胱の開放手術や鏡視下手術、尿路結石に対する内視鏡的手術、女性泌尿器科手術、小児泌尿器科手術などを行っています。特に、da Vinciや

hinotoriによるロボット手術を積極的に行っています。また、透析治療を担当しており血液透析導入時の内シャント作成から腎移植まで腎不全治療についても幅広く行っています。それぞれの成果については学会、論文について広く公表しています。

2. プログラムの目的と特徴

泌尿器研修プログラムによる専門研修により、「泌尿器科医は超高齢社会の総合的医療ニーズに対応しつつ泌尿器科領域における幅広い知識、練磨された技能と高い倫理性を備えた医師である」という基本姿勢のもと、泌尿器科専門知識、泌尿器科専門技能：診察・検査・診

断・処置・手術、継続的な科学的探究心の涵養、倫理観と医療のプロフェッショナリズムの4つのコアコンピテンシーからなる資質を備えた泌尿器科専門医になることを目指します。

3. 経験目標

専門研修では、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と日本泌尿器科学会が定める「泌尿器科専門研修プログラム基準 専攻医研修マニュアル」にもとづいて泌尿器科専門医に求められる知識・技術の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮します。



献体やウェットラボ、ドライラボなどによる若手医師の手術研修

4. 指導医と指導体制

教授	雑賀 隆史	尿路腫瘍・ロボット手術
准教授	宮内 勇貴	腎不全・腎移植
准教授	三浦 徳宣	尿路腫瘍・がん薬物療法
講師	福本 哲也	女性泌尿器科
特任講師	西村 謙一	小児泌尿器科・女性泌尿器科
特任講師	渡辺 隆太	一般泌尿器科・基礎研究
助教	大西 智也	一般泌尿器科・基礎研究
助教	西田 敬悟	一般泌尿器科
助教	新井 明那	一般泌尿器科
助教	澤田 貴虎	一般泌尿器科・腎移植



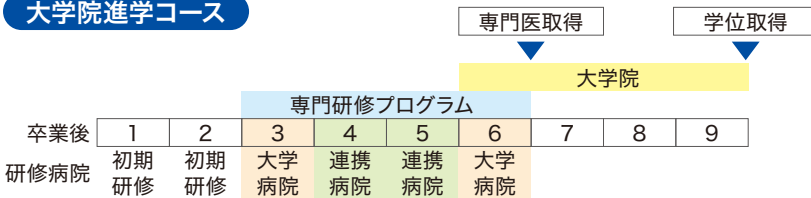
国産手術支援ロボット"hinotori"を導入

5. 研修に関する行事

月	火	水	木	金
【朝】手術症例検討会 【午前中】透析治療 【終日】手術	【終日】外来・検査・病棟業務 【夕】腎臓内科と透析カンファレンス 【夕】医局抄読会（臨床および研究論文紹介）および医局会	【朝】病理・臨床症例検討会 【午前中】透析治療 【終日】手術	【終日】外来・検査・病棟業務	【午前中】透析治療 【終日】手術

6. 新専門研修プログラム

大学院進学コース



コース選択は、高い臨床実施能力の獲得とサブスペシャリティ（泌尿器癌、腎移植、透析治療、小児泌尿器科、女性泌尿器科など）確立を目指す臨床修練コースと、学術的な涵養を目的とした大学院進学コースのどちらかを選択することができます。

臨床修練コース



7. 専門研修修了後について

各自の希望に沿い、大学院進学コースでは海外留学も視野に入れた大学院での修練へ、また臨床修練コースで

は大学病院における臨床医療、市中病院でのより実践的な臨床医療、開業などの選択肢があります。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：三浦徳宣（泌尿器科 准教授）

TEL：089-960-5356

E-mail：miura.noriyoshi.mk@ehime-u.ac.jp



脳神経外科



1. 脳神経外科の紹介

脳・脊髄・神経の様々な疾患に対して、全人的な診断と治療を行っており、特に先進的な技術や医療機器の導入、安全と正確性を駆使し多数の手術症例を行い、優れた治療成績をあげています。脳腫瘍、脳卒中を中心に国内でもトップレベルの臨床成績をあげ、県内外の多くの研修連携施設とともに、充実した研修指導体制を整えています。2003年より開設された脳卒中センターでは、急性期脳卒中症例に血管内手術も含めた専門的治療を行

い、2009年開設の脊椎センターでは、脊椎変性疾患や脊髄腫瘍の治療を行っています。2013年からは手術手技研修センターと連携し、微小神経解剖の習得ならびに手術手技のトレーニングを随時行えるよう環境を整備しています。2023年に「てんかんセンター」、2025年に「間脳・下垂体疾患センター」を複数科と共同で設置して、多彩な症例経験が積める基幹施設を中心とした研修プログラムとなっています。

2. プログラムの目的と特徴

脳神経外科専門医取得を目指して、日本専門医機構に認められた研修プログラムに沿って研修を進めます。本プログラムは愛媛県下唯一の脳神経外科研修プログラムで、初期研修2年の後、4年以上の研修を行い、所定の受験資格要件を満たす事により、専門医受験資格が得られることとなっています（詳細は、脳神経外科医局、及び後述の連絡先までお問い合わせください）。

- 当科は脳・脊髄に特化した外科系の一分野としての認識が強いと思いますが、実際には急性期脳卒中や神

経内科的疾患などの初期診断に関わることが多く、幅広い脳神経疾患のプライマリケアを習得できます。また、脊椎脊髄外科、神経放射線領域など、広範囲にカバーできる診療科です。

- 選択ローテート研修では、相談により脳卒中を中心とした研修も可能です。
- ご遺体を用いた微小解剖セミナーを開催し、手術手技の研修を行っています。

3. 経験目標

研修の概略目標

- 脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄疾患、機能外科、頭部外傷などの脳神経外科疾患に対して、最新の診断法と治療法を学び、実際の手術手技の基本を習得する。
- 個々の患者の病態、社会的・年齢的背景に基づき、生活の質（QOL：Quality Of Life）を重視した tailor-made 治療の実践を習得する。
- 希望に応じて、分子生物学的手法に基づいた脳腫瘍や脳血管障害の基礎や臨床研究を行う。

研修の具体的目標

- ① 救急を含む脳神経外科患者の初期処置・管理と診断・治療計画を立てる。
- ② 神経学的所見をとり、CT・MRI・脳血管撮影等の読影・診断をする。
- ③ 脳血管撮影等検査手技を、指導医のもとで習得する。
- ④ 開頭手術の開閉頭を指導医とともにやり、顕微鏡手術の助手を務める。
- ⑤ 穿頭術・水頭症シャント手術の術者を務める。

4. 指導医と指導体制

教授	國枝 武治	脳腫瘍、機能外科
教授	渡邊 英昭	脳血管障害
准教授	重川 誠二	脊椎脊髄外科
准教授	井上 明宏	脳腫瘍、機能外科
講師	松本 調	血管内治療
助教	田川 雅彦	血管内治療
助教	山下 大介	小児脳外科

助教	末廣 諭	頭蓋底外科、内視鏡手術
助教	西川 真弘	脳腫瘍、脊椎脊髄外科
助教	大塚 祥浩	認知症
助教	河野 大介	脊椎脊髄外科
助教	中村 和	機能外科
助教	柴垣 慶一	頭蓋底外科、内視鏡手術
助教	大塚 翔	脳腫瘍

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金	土・日
8:00-8:30	病棟回診					休み
AM	手術 (血管内手術も含む)	手術 (血管内手術も含む)	外来・病棟	手術 (血管内手術も含む)	病棟・自己学習	
PM	病棟 アンギオ	病棟 アンギオ	回診 カンファ 抄読会	病棟 (自己学習)	回診・カンファ	

6. 新専門研修プログラム

卒後3年目 : 大学病院で研修(脳腫瘍・脳血管障害・脊椎脊髄など)を行う。



卒後4-6年目 : 大学病院または連携・関連施設(関連施設は通算1年まで)で研修(脳血管障害・外傷・脳腫瘍など)を行う。希望者は大学院(基礎研究)への進学も可能。



卒後7年目 : 脳神経外科学会専門医取得。

7. 専門研修修了後について

大学院進学あるいは大学病院・関連施設での勤務。

- 脳卒中専門医、脳血管内治療専門医、脊髄外科認定医、神経内視鏡技術認定医、てんかん学会専門医、機能的定位脳手術技術認定医、脳卒中の外科技術認定医、小児脳神経外科認定医などを取得可能。

- 希望により海外・国内留学もできます。

(過去の留学先: モントリオール大学、オーフス大学、アイオワ大学、ケンブリッジ大学、デューク大学、アラバマ大学、神戸市立医療センター、国立循環器病研究センターなど)

8. 専門研修の問い合わせ先

担当: 國枝武治(教授) E-mail: kuny@m.ehime-u.ac.jp
 末廣 諭(医局長) E-mail: satoshi.suehiro@gmail.com
 TEL: 089-960-5338



放射線科



1. 放射線科の紹介

画像診断および放射線治療やIVRといった低侵襲治療は現代医学の中で最も進化した領域です。放射線科医はその中心的な役割を演じることの出来る魅力的な診療科であり、日常診療における様々な場面で重要な役割を担うようになっています。当科では画像診断にAI（人工知能）や遠隔画像診断システムを積極的に導入し、読影の効率化や様々なライフスタイルに応じた勤務態勢を構築しています。現在、県内外で画像診断および放射線治療を通して地域医療に貢献する同門の医師が約100名程度在籍しています。また、当科では育児・復帰支援を全面サポートし、個々人の労働時間や業務内容の希望に柔軟に対応することで、妊娠出産を経て様々な形で働き続ける女性医師もたくさん在籍しています。このように、放射線科を目指すことは、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の上で大きな選択肢となります。

2. プログラムの目的と特徴

放射線科には、大きく画像診断、放射線治療といった2つの大きな専門領域があります。専門研修の3年間では、放射線科医師としてこれら両方の専門領域について、まんべんなく知識を習得し、画像診断・放射線治療すべての基礎・臨床を学ぶことを目指します。画像診断では、診断レポート作成のみならず、造影検査や透視造影などの検査業務を通してその必要性や緊急時の対応を習得します。IVRでは肝細胞癌の動注化学療法などの血管内治療を通して、基本的な血管穿刺や止血の知識を学びます。放射線治療では治療計画策定を通して、治療線量や有害事象などの一般的な知識習得を目指します。なお、専門研修の初年度では、特に放射線科医としての基本的事項を理解し、安全な医療行為が行えるよう研修していきます。

3. 経験目標

専門研修の3年間で経験すべき症例として、単純X線写真400例、消化管X線検査60例、超音波検査120例、CT600例、MRI300例、核医学検査50例、およびIVRと放射線治療が各々30症例以上が必要です。また、指定された学術集会への参加や発表、必須講習受講や論文などの執筆活動が必要です。



読影室の風景



IVRの様子

4. 指導医と指導体制

教授・診療科長	城戸 輝仁	循環器画像診断
准教授	松田 恵	腹部、乳房画像診断
准教授	川口 直人	核医学、IVR
助教	上津孝太郎	放射線治療
講師・医局長	中村 壮志	神経、循環器画像診断
助教	海老原るい	画像診断全般
助教・外来医長	福山 直紀	IVR

助教・病棟医長	高田 紀子	放射線治療
助教	岡田 知久	画像診断全般
助教	河内 孝範	画像診断全般
助教	年森 巨	画像診断全般
助教	細川 貴晶	画像診断全般
助教	多保 康平	画像診断全般

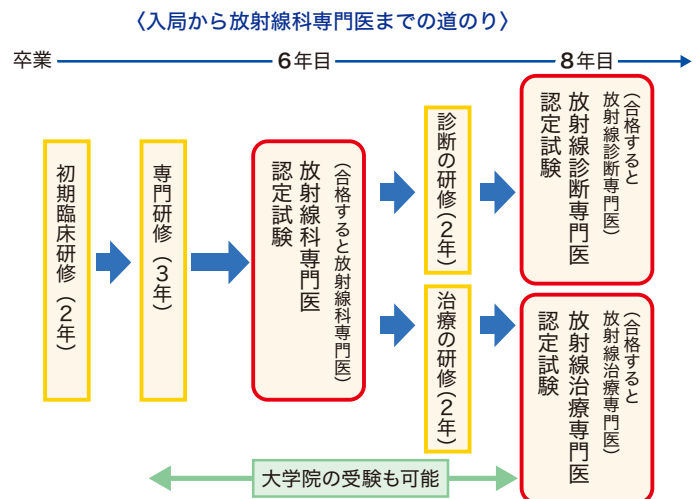
5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来CT業務	IVR	カンファレンス	病棟業務	放射線治療
PM	読影	外来MRI業務	病棟回診・医局会	読影	外来PET業務

*毎日夕方に上級医によるレクチャーや症例検討会を実施しています。

6. 新専門研修プログラム

当科では、初期臨床研修（2年間）終了後、専門研修（3年間）を完結し、専門医試験合格を目指します。3年間の専門研修では、1年目、2年目、3年目のどの期間を専門研修基幹施設と専門研修連携施設での研修を行うかにより、複数のコースが設定されています。いずれのコースも、研修期間の3年間のうち1年間は専門研修基幹施設（愛媛大学）を、2年間は専門研修連携施設で研修できるように設定されています。



7. 専門研修修了後について

3年間の研修終了後は放射線科一次専門医を取得し、診断と治療分野に分かれて、診断および治療専門医取得を目指します。その後は様々な領域のサブスペシャリティ（画像診断、IVR、治療、核医学など）に分かれています。大学院への進学はいずれの時期にも可能です。臨床研究での学位取得が可能ですので、専門医と博士号

の取得を同時に目指すことが出来ます。大学院へ進学した場合でも、大学への診療や他病院の診療支援に携わるため、臨床のスキルアップや収入面においても、臨床医と遜色なく、大学院で医学博士号取得を目指すことができます。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：中村壮志（愛媛大学医学部放射線科） TEL：089-960-5371
 FAX：089-960-5375 E-mail：radiology@m.ehime-u.ac.jp



麻 酔 科



1. 麻酔科の紹介

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体への侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科医は、手術中の患者の生命維持を担当し、あらゆる生体情報から患者の状態を把握し対応する、いわば、患者の最大の擁護者・代弁者であり、まさに、患者安全のた

めの最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。麻酔科医の有する知識や技術は、手術麻酔だけではなく関連分野である集中治療、救急医療、ペインクリニック、緩和医療などの分野でも活かされており、麻酔科は幅広い領域において活躍できる診療科である。

2. プログラムの目的と特徴

〈目的〉

手術中の患者の麻酔維持を通して基本的な全身管理を学び、愛媛県民および国民に安全で快適な周術期医療を提供できる麻酔科専門医を育成することである。手術麻酔の知識を基礎に、各専攻医の希望に沿って、集中治療、ペインクリニック、心臓血管外科麻酔など、サブスペシャリティ領域における専門医取得に向けた準備も同時にやっていくことも目標とする。

〈特徴〉

専門研修で求められる全ての要件を満たせるプログラムである。また、小児心臓血管外科手術や生体肝移植術など、愛媛県内では当院でしか経験できない症例も多数あり、サブスペシャリティ領域の教育も含め、幅広く経験が得られるプログラムとなっている。

3. 経験目標

- 全身麻酔や局所麻酔に用いる薬剤に関する知識、呼吸・循環管理、輸液管理、並存疾患を有する患者に対する麻酔管理などを習得する。
- ラリングルマスクによる麻酔維持やファイバー挿管など、気道確保困難に対する対応を経験する。
- 中心静脈カテーテル挿入、硬膜外麻酔などの手技を習得する。
- 呼吸生理や循環生理を理解し、人工呼吸器、膜型人工肺などの生命維持に必要な医療機器に関する知識を習得する。

4. 指導医と指導体制

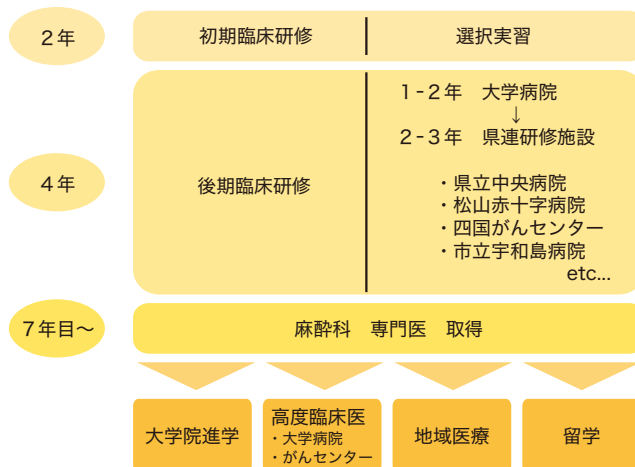
教授	西原 佑	麻酔・集中治療
准教授	北村 咲子	麻酔・小児心臓麻酔
准教授	高崎 康史	集中治療・麻酔
助教	藤井 知美	緩和ケア・ペインクリニック
助教	藤井 園子	麻酔・小児心臓麻酔
助教	藤岡 志帆	麻酔・緩和ケア
助教	渡邊 愛沙	麻酔・ペインクリニック・緩和ケア

講師	阿部 尚紀	麻酔・集中治療
講師	関谷 慶介	麻酔・集中治療
助教	南立 秀幸	集中治療・麻酔
助教	西川 裕喜	麻酔
助教	小西 周	麻酔・心臓麻酔
助教	廣松恵美子	麻酔
助教	谷島 明秋	麻酔・心臓麻酔

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	集中治療	ペインクリニック
PM	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔		手術麻酔

6. 新専門研修プログラム



基幹施設：愛媛大学医学部附属病院

連携施設：愛媛県立中央病院

松山赤十字病院

松山市民病院

四国がんセンター

済生会松山病院

愛媛県立今治病院

愛媛県立新居浜病院

市立宇和島病院

順天堂大学医学部附属順天堂医院

心臓病センター 榊原病院

兵庫県立こども病院 他

7. 専門研修修了後について

- 4年間の研修期間の4年目に専門医試験の受験資格が得られる。
- 専門研修終了後は、大学病院や県内の関連病院での勤務や、専門性の高い領域に関しては国内留学なども推奨し、更なるスキルアップを図る。
- 心臓血管外科麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和医療などの分野におけるサブスペシャリティの取得を推奨する。
- 大学院へ進学し学位を取得したり、海外への研究留学を行うなど、研究領域での活躍も推奨する。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：西原 佑（麻酔・周術期学教室 教授）

TEL：089-960-5383 E-mail：nishihara.tasuku.cb@ehime-u.ac.jp



病理診断科（病理部）



1. 病理診断科の紹介

病理診断学は、病理組織診断を基盤に臨床情報を包括した総合診断の体系です。病理医は、臨床各科からの生検検体の病理組織診断を確定して治療方針決定に寄与し、手術切除検体の悪性度・進行度を診断して治療効果判定や予後予測に必要な情報を提供します。症例件数は、組織診7,980件、術中迅速390件、細胞診5,600件で、

年々増えています。大学病院では稀少症例も多く、多岐の疾患について研修できます。病理解剖は年間約20例、系統的に詳細な解析を行い、病態や臓器相関の観点から検証します。今日の高度先端医療、がん診療、地域医療の振興などあらゆる局面で病理専門医が求められています。私どもと共に学び、病理専門医を目指しましょう。

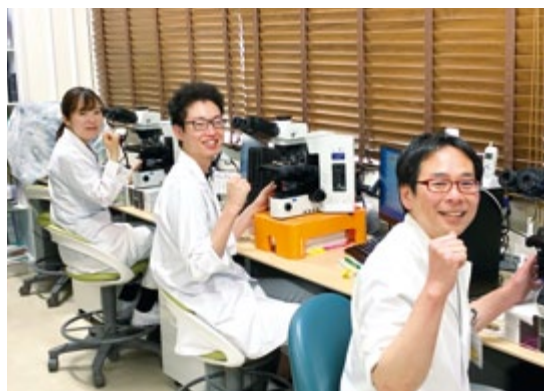
2. プログラムの目的と特徴

愛媛大学病院を基幹施設として3年間は連携施設との協同で病理専門医資格の取得を目指します。県下の中核病院、がんセンターなど、症例は多彩で指導医も人材豊富です。当地の「愛媛病理研究会」を基盤に、高水準の診断能力とリサーチマインドを備えた病理医を育成します。現在、愛媛県の病理専門医は27名、7割が50歳以上です。今後のがん診療、地域医療には、病理専門医の

勤務する病院が不可欠です。いま病理医を目指すならば、働き盛り、燦し銀世代から英知に満ちた指導を受けてキャリアを重ね、大学や地域の拠点病院で、活躍する進路が拓けます。若い世代が希望を持って進めるよう、専門医取得後の進路や、ライフサイクルに適した就労を支援します。

3. 経験目標

- * 臨床研修2年修了+3年以上の病理専門研修修了
(推薦書、病理専門研修手帳)
- * 死体解剖保存法による死体解剖資格の取得
- * 病理専門医研修期間中の人体病理学実践経験として
 - a) 病理解剖で剖検診断報告書24例以上、CPC報告書2例以上
 - b) 生検・手術検体の病理組織診断5000例
(術中迅速診断50例)以上
 - c) 人体病理学に関する原著論文・学会報告3編以上
- * 講習会受講
(剖検講習会、細胞診講習会、分子病理診断講習会)



4. 指導医と指導体制

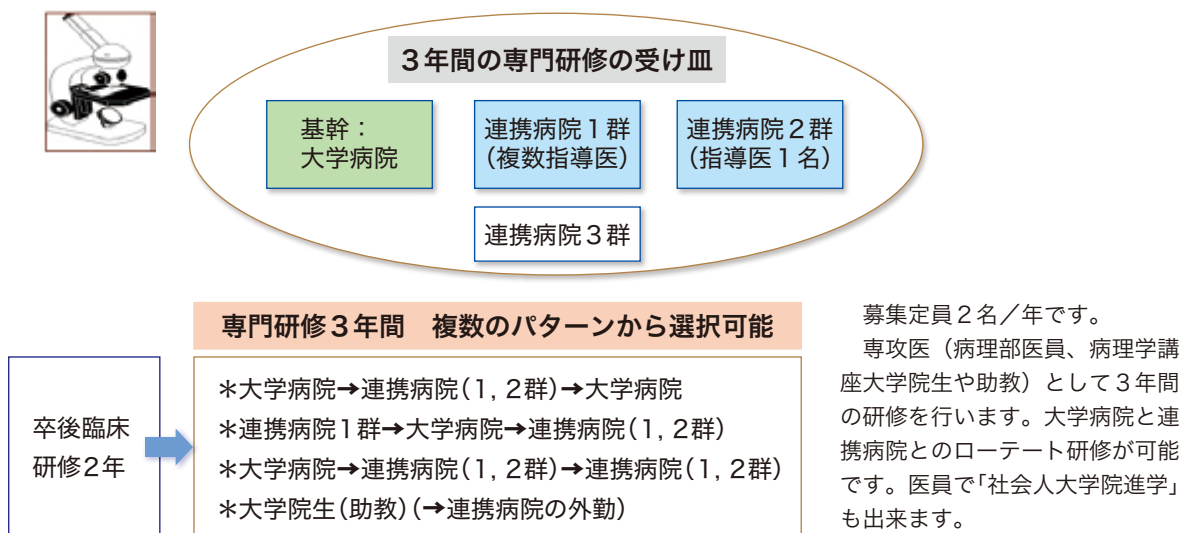
病理部長・教授	藤本 正数	病理診断学
解析病理学教授	増本 純也	病理診断学
県立中央病院部長	木藤 克己	病理診断学
松山日赤病院部長	大城 由美	病理診断学

四国がんセンター部長	寺本 典弘	病理診断学
市立宇和島病院科長	松影 昭一	病理診断学
松山市民病院部長	飛田 陽	病理診断学
済生会西条病院名誉顧問	植田 規史	病理診断学

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	生検・切出業務	生検・切出業務	生検・切出業務	生検・切出業務	生検・切出業務
PM	迅速診断 症例検討会 生検診断	迅速診断/研究カンファ 生検診断/Expert panel	迅速診断/剖検APC 剖検CPC/症例検討会 生検診断	迅速診断 症例検討会 生検診断	迅速診断 生検診断

6. 新専門研修プログラム



7. 専門研修修了後について

大学院進学は随時可能です。病理専門医資格取得後は、愛媛大学または連携施設1, 2群に勤務して、病理診断サブスペシャリティの確立、病理学研究の推進、医学教育など、進路選択に応じた経験を積むことができます。

留学(国内外)や3群連携施設の専任病理医となることも可能です。研究志向の場合、病理組織学の経験知は、全ての分野で基礎研究や臨床研究の基盤となります。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：藤本正数 (愛媛大学附属病院 病理診断科・病理部 病理部長)

TEL：089-960-5622 E-mail：fujimoto.masakazu.lw@ehime-u.ac.jp

臨床検査医学



1. 臨床検査医学の紹介

臨床検査医学は基礎医学と臨床医学を結ぶ掛け橋となる総合的な学問です。当科は、臨床検査医学と内科の2つの基本領域の専門研修を担当しています。日本専門医機構の臨床検査専門医、内科専門医、内科サブスペシャリティの内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医、さらにはその上の糖尿病専門医を取得できます。臨床検査専門医

は全国で600名と大変少なく、専門研修プログラムを有する大学は四国では愛媛大学のみです。当科では、現在3名が機構専門医を有しており、検査部と連携して指導を行います。また、研究で養う洞察力と論理的思考力は、臨床をする上でも大変重要です。大学院に所属しながら研修を行うプログラムも用意しています。

2. プログラムの目的と特徴

本プログラムでは、臨床検査の基礎医学的背景、方法論、臨床的意義を十分に理解し、それを元に医師や他のメディカルスタッフと協力して適正な医療の実践に貢献することを目的とします。臨床検査専門医は検査部全体のマネジメントを行います。指導医のもと、各診療科からの検査データの解釈問合せに対するアドバイス、異常値（特に、生命にかかわるcritical value）への対応、日常検査データの精度管理、検査過誤を予防するための

システムの導入、検査法の標準化の推進、新しい検査方法の開発、新しい検査項目の選定、臨床の有用性を確認するための研究などを経験、学習します。臨床検査専門医は、臨床医学全般に関わる総合的な科学者と位置づけられ、診療だけでなく研究にも参画できるリサーチマインドを身につけることを目標とします。

3. 経験目標

臨床検査総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・細菌学、遺伝関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。それぞれの科目において、精度管理、異常値症例等を経験し、レポ

ートを作成します。臨床検査の報告書作成や、他科からのコンサルテーションへの対応を経験します。院内のチーム医療活動に参加します。検査データカンファレンス(RCPC)に参加し、レポートを作成します。

4. 指導医と指導体制

教授・検査部長	高田 康德	臨床検査医学
准教授・副検査部長	川村 良一	臨床検査医学
助教	高門美沙季	臨床検査医学

5. 研修に関する行事（一例）

	月	火	水	木	金
AM	検査室研修	検査診断業務	検査室研修	検査診断業務	検査室研修
PM	指導医の講義	カンファレンス	指導医の講義	RCPC・勉強会	カンファレンス

6. 新専門研修プログラム

愛媛大学医学部附属病院において3年間の研修を行います。臨床検査の基本科目とそのおおまかな研修期間は以下の通りですが、専攻医ごとにバランスの取れた研修日程を調整していきます。

- ① 臨床検査医学総論： 2～4か月
- ② 一般臨床検査学・臨床化学： 4～6か月
- ③ 臨床血液学： 4～7か月
- ④ 臨床微生物学： 4～7か月
- ⑤ 臨床免疫学・輸血学： 2～4か月
- ⑥ 遺伝子関連検査学： 2～4か月
- ⑦ 臨床生理学： 2～6か月

7. 専門研修修了後について

研修の修了が認定されたら専門医試験の受験資格が与えられます。この試験に合格すると、臨床検査専門医となります。臨床検査専門医には、さらに経験を積み大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって現在は数少ない臨床検査専門医を育成する

こと、教育研究施設において臨床検査医学の教育と研究を担うことが期待されます。当科では、遺伝子検査等の専門性をさらに高め、precision medicineの実現を目指しています。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：高田康德（糖尿病内科学・臨床検査医学 教授）

TEL：089-960-5647 E-mail：ytakata@m.ehime-u.ac.jp



救 急 科

1. 救急科の紹介

愛媛大学医学部附属病院救急科は、1995年に訓令化された愛媛大学医学部救急医学講座を基盤としており、三次医療施設として救急外来における初期治療に引き続いて集中治療を行っています。2017年2月からはドクターヘリ基幹連携病院としてドクターヘリ事業を県立中央病院と分担して搭乗しています。各専門診療科と協力して治療にあたりますが、とくに下記の疾患では主担当で集中治療を行います。チーム制で治療を担当しており、On-Off にも配慮しています。もちろん、当直明けは帰宅可能です。

大学病院内の院内急変対応（Rapid Response System）も担っており、院内医療安全にも寄与し、必要時は継続して集中治療を行います。松山、今治など近隣の二次救急医療の診療・バックアップとして救急医療の支援をしています。

- 多発性外傷：治療の優先順位の決定、初期からの凝固線溶異常を意識して、PTD（preventable trauma death）の減少を目指す。四肢・骨盤外傷、胸腹部外傷、血管内治療にも積極的に関わっています。
- 重症敗血症・重症呼吸不全・多臓器障害：現疾患治療とともに、ショックやDICに対する治療、人工呼吸管理・CHDF、PMXなどの血液透析、膜型人工肺を用いた体外循環ECMO（Extracorporeal membrane oxygenation）による集学的治療により救命を目指す。

2. プログラムの目的と特徴

当科では、愛媛県内・県外の病院群で救急科専門医研修プログラムを提供し、研修者には視野の広い救急専門医、素晴らしい人格者へと成長するように指導していきます。

救急科以外の専門医取得に関して、より積極的に支援します。専門医獲得以降も各専門領域の技能獲得と維持とともに、救急医としてのレベルアップを重視します。期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。国内・国外・基礎研究・臨床研究を踏まえた幅広い視野の持てる救急医育成が可能です。Walk inの一次救急からER、三次救急、ドクター



【COVID-19では愛媛県内での重症患者を中心に治療を担い、人工呼吸管理・ECMO管理などを用いて、愛媛県内の多くの命を救ってきました】

- 特殊感染症：破傷風、壊死性筋膜炎等の軟部組織感染症に対するデブリードマン、経皮的ドレナージ、NPWT（Negative Pressure Wound Therapy）などにより救命率向上を目指す。
- 低体温療法：重症頭部外傷における低体温療法で長年培ってきたスキルを応用し、PCAS（Post-Cardiac Arrest Syndrome）に対して積極的に低体温療法を行い、神経蘇生、後遺症の軽減を目指す。
- JATEC、ICLS、災害対応訓練、献体を用いた外傷手術トレーニング、生体アニマルを用いた外傷手術トレーニング、多施設での症例検討会などを開催しOff the job trainingにも力を入れている。

ヘリ、災害医療、国内留学・海外視察など専門医プログラムに留まらない、専修医の夢や目標を一緒に考えていきます。

- 日本救急医学会がダブルボードの取得に柔軟な考えを持っており、【救急科+他の専門医】に理解を示しています。救急科プログラムで救急科専門医を取得、その後他の専門医プログラムに属してダブルボード取得することが可能です。

愛媛県地域枠にもこの制度を取り入れました。魅力的な選択肢（詳細は救急医学佐藤までご連絡をください）の一つになるかと思えます。

3. 経験目標

専門研修1年次（愛媛大学医学部附属病院12か月）

- 研修到達目標：救急初療を理解し、時間的センスを身につける。また救急基本手技を習得し、救急医としての基礎を確立する。大学病院において横断的な集学的治療を研修する。
- 研修内容：指導医とともに治療を担当する。個々の症例に対してじっくりと考え、理解する。大学病院内で救急医療に関連する他の専門領域の勉強、ドクターヘリ・ドクターカーといったプレホスピタルケアの研修が可能である。大学病院から救急輪番の医療支援を担い、一次から三次救急・集中治療の研修が可能である。

専門研修2年次例（愛媛県立中央病院、愛媛県立新居浜病院、松山市民病院、広島県立病院、福井県立病院、兵庫県立加古

川医療センター、京都第二赤十字病院、京都大学・横浜市立大学病院、日本医科大学高度救命救急センターなど連携病院あるいは救急医療に関連する他科研修から合計12か月選択可能）

- 研修到達目標：救命救急センター、救急に関連する他科での診療研修において知識、技術を向上させる。
- 研修内容：数多くの症例を担当することによって、知識、技術を確立させる。研修者の希望に合わせ一次～三次救急医療・災害医療・ドクターカー・ヘリといったプレホスピタルケア・救急に関連する他科の研修が可能である。ER診療、ドクヘリ・プレホスピタル、重症外傷診療へのチーム医療、アカデミックな大学病院など多彩なラインナップから専攻医にあった研修先の選定

専門研修3年次例（愛媛大学医学部附属病院での研修6か月を含み、あるいは救急医療に関連する他科研修など、希望者には海外での研修1か月程度を考慮する）

- 研修到達目標：救命救急センターにおいて重症急性病態の初療と集学的治療のマネジメント、地域救急医療の研修などを行い、積極的に学会への発表・参加も行い幅広い視野を持った研修を行う。（ドクターヘリや当直などが独り立ちできるレベルへ到達）
- 研修内容：救急初療、集学的治療においてリーダーとして

治療を担当する。診療において後進指導を行う。また他職種と連携をとり、病棟管理を行う。地域のメディカルコントロールに参加する。国内・国外の学会発表、論文作成。

*ER研修においては、愛媛大学医学部附属病院在籍中に、松山赤十字病院救急部、松山市民病院、済生会松山病院などに出向して研修することが可能です。救急輪番の支援という形でも愛媛県内の病院と連携をとっています。他科研修については、愛媛大学医学部附属病院において救急科と連携して可能です。

4. 指導医と指導体制

教授	佐藤 格夫	救急、集中治療
教授	竹葉 淳	救急、整形外科
准教授	菊池 聡	救急、外科
講師	松本 紘典	救急、外科

助教	大下 宗亮	医療安全、IVR
助教	向井 直樹	救急、外科
助教	安念 優	救急
助教	田邊 庸徳	救急

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
8:30-9:15	カンファレンス				
AM	ICUケア 初療対応 院内急変対応	ドクヘリ	ICUケア 初療対応 院内急変対応	ドクヘリ	ICUケア 初療対応 院内急変対応
PM					
16:30-17:15	当直医への申し送りカンファレンス				

6. 新専門研修プログラム

愛媛大学大学院医学系研究科 救急医学
愛媛大学大学院医学系研究科 救急航空医療学講座

若者への様々なチャンスを作り出す
若者の人としての成長を考える

救急医学・救急医療は幅が広い。

- 若者が大切だと思うアイデアがあれば、それを作り上げていく支援をする
- プログラムは若者と社会のニーズに合わせる
⇒ 常に新しいプログラム構成を考える
- 愛媛県以外の医療、社会を知ることが、愛媛県のためである。
積極的に留学を支援する



医師としての成長・人としての成長
⇒ 専門医取得後の方が大切である

救急科専門医取得のパターン

最短取得型

Subspecialty取得型

救急科専門医プログラム 最短3年間

救急医療では色々な選択肢がある

- ・ドクヘリ・プレホスピタル
- ・重症傷病者診療・集中治療
- ・外傷・敗血症
- ・Subspecialty手術・IVR
- 整形外科系・外科系・脳外科系など
- ・ER 総合診療 内科系救急 小児科
- ・災害医療
- ・基礎研究/臨床研究
- ・国内留学/海外留学

救急科専門医プログラム

途中、他の専門医プログラム 専門医取得 通常3年間

救急科専門医プログラム 続きを継続

救急科専門医プログラム

+

他の専門医プログラム 専門医取得 通常3年間

日本救急医学会が、多彩な研修やダブルボード取得の柔軟な考えを提唱

*愛媛大学地域枠ダブルボード取得が可能になりました

(カリキュラム制度/救急科3年+外科2年などでダブルボード取得可能など柔軟な制度が認可され始めました)

7. 専門研修修了後について

愛媛をよくするには、他の地域のことを知ることが重要であり、積極的に国内・国外への留学を支援します。15年先

を見越した各個人の希望を加味したオーダーメイドな研修を考えます。

8. 専門研修の問い合わせ先および提出先

- 募集定員：5名/年
- 応募書類：申請書、履歴書、医師免許証の写し
- 応募期間：2026年9月末までにメールをお願いします。

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 愛媛大学医学部救急医学教室

救急科専門医研修プログラム委員会 佐藤格夫 宛

TEL：089-960-5722 FAX：089-960-5714

E-mail：drnori@m.ehime-u.ac.jp



形成外科



1. 形成外科の紹介

愛媛大学医学部附属病院形成外科は日本形成外科学会の認定施設であり、日本専門医機構に認定された形成外科領域専門医育成における基幹施設です。形成外科は体表面から軟部組織までの、数多くの疾患を診療する外科系診療科であり、さらに頭頸部再建、乳房再建、手足の

再建など再建外科としての役割も担っています。本プログラムでは愛媛県の将来を担う形成外科専門医を育成し、愛媛県内で不足している形成外科医療の普及を目指すことを目的としています。

2. プログラムの目的と特徴

形成外科領域専門医の取得に必要な新鮮熱傷、顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷、唇裂・口蓋裂、手足の先天異常・外傷・変形、その他の先天異常、母斑・血管腫・良性腫瘍、悪性腫瘍およびそれに関する再建、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、褥創・難治性潰瘍、美容外科など

全てを網羅して研修を行い、4年間また、2025年度からは札幌医科大学形成外科、弘前大学形成外科とも連携し、愛媛では少ない先天性疾患などの症例も多く経験することができるようになりました。

3. 経験目標

専門研修の4年間で、医師として倫理的・社会的に基本的な診療能力を身につけることと、日本形成外科学会が定める「形成外科領域専門研修カリキュラム」にもとづいて形成外科専門医に求められる専門技能の修得目標を設定します。研修2年目からはマイクロサージャリー

やクラニオフェイシャルサージャリーといったような手術手技を習得するための研修を行います。4年目ではチームリーダーとなって他科との再建手術を計画・実行する能力を身につけるための研修を行います。

4. 指導医と指導体制

准教授	森 秀樹	創傷治癒
特任講師	戸澤 麻美	再建外科・先天性疾患
助教	村上 達郎	熱傷・難治性潰瘍
助教	泉本真美子	乳房再建
助教	木村 千寿	瘢痕・ケロイド

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	手術	外来・病棟業務	手術	外来・病棟業務
PM	手術		カンファレンス		

6. 新専門研修プログラム

基幹施設である愛媛大学医学部附属病院と連携施設である松山市民病院、南松山病院、済生会松山病院に加え、市立宇和島病院、愛媛県立南宇和病院など5つの施設での研修が可能です。

【専門医研修のローテーション例】

- 1年目：愛大医学部附属病院形成外科（1年）
- 2年目：松山市民病院形成外科（1年）
- 3年目：南松山病院形成外科（1年）
- 4年目：済生会松山病院形成外科（9か月）、市立宇和島病院形成外科（3か月）



7. 専門研修修了後について

専門医取得後は大学病院あるいは関連病院で引き続き形成外科の診療を続け、サブスペシャリティである頭蓋顔面外科専門医、日本創傷外科専門医、手外科専門医、美容外科専門医などを目指すことになります。また、博士号取得を希望する場合は専門研修と並行して進める事もできますし、地域医療（南予、東予）を主体に研鑽を積むことも可能です。



8. 専門研修の問い合わせ先

担当：森 秀樹（形成外科 准教授） TEL：089-960-5350



女性医師の働き方、地域枠の先生の働き方についてもいくつかのオプションとサポート体制を整えています。

リハビリテーション科



1. リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション医学は、障害を診る医学です。

Rehabilitation とは、re- (ふたたび) -habillis- (適した：人間にふさわしい) -ation (状態にする) -という意味があります。

急性期リハビリテーションと回復期リハビリテーションの2種類の業務があります。

急性期では、他科入院中で院内紹介された患者（コンサルテーション）を中心に診療。回復期ではリハ目的で入院した患者の診療をします。

右上図は、日本リハビリテーション医学会のシンボルマークです。手で人を支えるイメージで、アルファベットの“R”を表しています。

右下図では、リハビリテーション医学とは、「機能回復」・「障害の克服」・「活動を育む」の3つのキーワードで診療にあたっていることを説明しています。



日本リハビリテーション
医学会

2. プログラムの目的と特徴

愛媛県リハビリテーション研修プログラムでは、愛媛大学医学部附属病院を基幹病院とし、9の連携病院とともに、リハビリテーション専攻医の指導にあたっています。

新専門医制度では、2022年より1名、2023年より1名、2025年より1名、2026年より1名の専攻医を登録しています。

日本リハビリテーション医学会が定めた認定施設にて3年間の研修を受けますが、3年間の研修のうち、基幹施設（愛媛大学医学部附属病院）にて6か月以上、回復期リハビリテーション病棟を有する施設で6か月以上の研修が必要です。

また、ダブルボードでの専攻医の受け入れもしています。先に内科・外科・小児科・整形外科の基本領域専門医を取得後に、リハビリテーション専門医の取得もできます。この場合、専攻医登録後、カリキュラム制の元、認定施設にて2年間の研修後、専門医試験を受験できます。取得の要件は、2年間の研修以外は、プログラム制と同じです。



「活動」を育む医学

3. 経験目標

研修中、以下の9つの疾患群の診療経験が必要です。

- ①脳血管障害・頭部外傷
- ②運動器疾患・外傷
- ③外傷性脊髄損傷
- ④神経筋疾患
- ⑤切断
- ⑥小児疾患
- ⑦リウマチ性疾患
- ⑧内部障害
- ⑨その他（摂食嚥下障害、不動・廃用による合併症、がん、骨粗鬆症、疼痛など）

3年間で、すべての疾患の経験ができます。

専門医受験の他の要件：

- 経験した上記疾患のレポートを提出。
- 日本リハビリテーション医学会学術集会などでの発表2題。

4. 指導医と指導体制

愛媛大学附属病院リハ科（基幹施設）	鴻上 繁・間島 直彦・木谷 彰岐	急性期
松山赤十字病院リハ科	田口 浩之	急性期
西条市民病院	首藤 貴	回復期
伊予病院	藤田 正明・高橋 真司	回復期・小児
ジェイコー宇和島病院	渡部 昌平	整形・リウマチ・回復期
松山リハビリテーション病院	木戸 保秀	回復期
おおぞら病院	上甲 隆敏	回復期
HITO病院	森野 忠夫	整形・脊椎整形・回復期
四国がんセンター	杉原 進介	腫瘍整形・がんリハ
旭川荘南愛媛病院	高橋 義仁	整形・小児

【愛媛大学医学部附属病院】リハビリテーション科スタッフ

科 長：高尾 正樹（整形外科教授兼任）
 指導医：鴻上 繁（プログラム責任者、リハ科専従医）
 間島 直彦（地域医療再生学教授、股関節外科）
 木谷 彰岐（整形外科准教授、腫瘍整形）
 PT：17名 OT：5名 ST：5名 事務：1名



痙縮に対するボツリヌストキシンの施注

5. 研修に関する行事

愛媛大学医学部附属病院での週間スケジュール

	月	火	水	木	金
AM	整形カンファレンス 新患診察	新患診察	新患診察 嚥下外来	整形合同カンファ 新患診察	神経内科カンファレンス 新患診察
PM	整形カンファ・総廻診	装具診 ロボットリハビリ	嚥下検査	書類診察 小児診察	小児カンファレンス

6. 専門研修修了後について

専門医取得後は、急性期リハビリテーション施設または回復期リハビリテーション病棟を有する施設（リハ専門病院）での勤務を行い、3年後に、指導医の資格を取得します。

指導医がいる施設が、研修病院（基幹施設または連携施設）になります。

7. 専門研修の問い合わせ先

担当：鴻上 繁（愛媛大学医学部附属病院リハビリテーション科）
 TEL：089-960-5723（リハ科外来）
 TEL：089-960-5343（整形外科医局）
 E-mail：kogami.shigeru.xj@ehime-u.ac.jp



ロボットリハビリテーション
 (HAL：hybrid assistive limb)
 による歩行訓練

総合診療科



1. 総合診療科の紹介

総合診療科とは、専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、全人的に人を捉え特定の臓器や疾患に限定せず多面的に診療を行う部門です。その核となるのは診断学と、包括医療です。前者では、患者さんが訴える「症状」を適切に解釈し、身体診察を行い、それらの情報を多岐に渡る膨大な疾患の可能性を吟味し、鑑別診断を挙げ診断を行います。後者では診断に至らない患者や、医学的な

問題はなくても社会的、心理的な問題をかかえる患者さんに対して、多職種連携を行いながら、患者さんを支える医療を提供します。高齢化が進み、患者の疾病の複雑化に対応するべく、地域に根付いた教育と研究、診療活動を行う必要があります。当科ではそれらを得意とする総合診療専門医の育成を目指しています。

2. プログラムの目的と特徴

● 研修場所について

主な研修場所は地域の一次／二次医療を担当する一般病院です。日常診療や救急医療を通し、多彩な疾患を十分に経験する機会を保障します。病院内外での多職種連携、病診連携、往診活動や保健予防活動などプライマリケアの視点を身につけることができます。サテライトセンターでは大学のネットワークを介した学習システムやデータベース利用が可能です。

● 研修医の先生を大切に育てます。

研修医の意向に沿って研修スケジュールを調整します。家庭の事情も配慮したプログラム作成可能です。総合診療の指導医が研修期間を一貫して指導にあたります。問題指向型学習をベースに研修医の問題解決能力を養います。研修医が身体的、精神的に健全かつ経済的に不安のない研修ができるように、適切な休暇・給料を保障しています。

3. 経験目標

地域医療を担う医師には、一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患の対応、訪問診療など在宅医療や介護保険への関わり、疾病予防（健康診断、予防医学）学校医や産業医活動など多岐にわたる対応が求められます。地域が異なれば住民のニーズも異なります。当プログラムでは、あらゆる地域のあらゆる患者に対し、全人的な医療を提供できる総合診療医・家庭医としての技能の習得を目指します。



4. 指導医と指導体制

教授	阿部 雅則	総合診療、一般内科
教授	熊木 天児	総合診療、一般内科
地域医療支援センター長	川本 龍一	総合診療、一般内科
准教授	菊池明日香	総合診療、一般内科
助教	二宮 大輔	総合診療、一般内科
助教	金本麻友美	総合診療、一般内科



5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	外来・病棟業務	2次救急	検査	外来・病棟業務
PM	2次救急	病棟カンファ・回診	画像勉強会・健康教室	訪問診療	診療所・施設往診

6. 新専門研修プログラム

愛媛大学医学部附属病院 総合診療医 育成プログラム
Ehime General Practice Development Program (EGPDP)

初期研修	専門研修	サブスペシャリティ
● 地域実習 (1~3ヶ月)	● 総合診療 I (6ヶ月~) ● 総合診療 II (6ヶ月~) ● 内科 (6ヶ月~) ● 救急科 (3ヶ月~) ● 小児科 (3ヶ月~)	● 家庭医療専門医 ● 病院総合診療専門医
関連施設： 大学病院、県立病院、市立病院、私立病院、赤十字病院、 市立病院、診療所		
学習内容： 全人的医療、プライマリケア（小児～高齢者）、包括医療、 終末期医療、救急医療、多職種連携、在宅医療、介護福祉、 多職種連携、臨床研究、		



総合診療専門研修プログラムは、地域での総合診療研修Ⅰ、高度医療機関での総合診療研修Ⅱ、内科研修、救急研修、小児研修からなります。ローテートの順番は研修医の先生の意向に添って決定し、また希望する医療機

関での研修を調整します。総合診療専門医取得後は、家庭医療や病院総合診療といったサブスペシャリティが選択可能です。

7. 専門研修修了後について

当院でそのままサブスペシャリティ*の研修が可能です。（*：家庭医療専門医、病院総合診療専門医、それぞれサブスペシャリティとして認定見込み予定。）勤務に関しては個人の希望に応じて、愛媛大学や関連病院で

の勤務が可能です。また大学院へ進学し、疫学研究をベースとした臨床研究を学びながら、医師として診療を継続することも可能です。個々のプライベートライフを尊重しつつ、柔軟な勤務体制を検討することができます。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：サテライトセンター 担当者

（愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療・総合診療学講座））

TEL：0894-72-0180 E-mail：comm-med@m.ehime-u.ac.jp



専門研修案内 2027年度

2026年5月 発行

発行 愛媛大学医学部附属病院
愛媛県東温市志津川 454

発行責任者 病院長 羽藤 直人

編集 愛媛大学医学部附属病院
総合臨床研修センター

編集責任者 総合臨床研修センター
センター長 熊木 天児